

第9節 絵図

- ※ 今回報告書を作成するにあたって調査した絵図について掲載した。掲載絵図は「修補絵図」と「関連資料」と「その他」に大別した。
- ※ 所蔵先の表記について、一部次のとおり略記した
 - ・松平文庫：肥前島原松平文庫（島原市教育委員会）
 - ・本光寺：本光寺常盤歴史資料館（島原市）
 - ・臼杵市教委：臼杵市教育委員会
 - ・九大文化史：九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門

修補絵図および関連資料

- ※ 「修補絵図」は、石垣や城郭建造物などの修補を幕府に届け出る際に提出されるが、現在遺されており、今回掲載したものの多くはその控図である。中には享保四（1719）年作成の『肥前国島原城絵図』（本光寺29、絵図番号10-1）のように、提出しながらも差し戻された絵図も含まれる。
- ※ 「修補絵図および関連資料」には修補の許可を達した老中奉書やその他の覚書等、絵図の作成に関連する文献資料も掲載した。また、修補に関する文献資料でありながら絵図が伝わっていないものや、当初より単体の文献資料についても「補遺」の項を設けて掲載した。なお、今回報告書には掲載していないが、『島原市文化財調査報告書 第15集 森岳城跡IV－島原拘置支所宿舎建設に伴う発掘調査報告－』に翻刻文を掲載した、肥前島原松平文庫蔵『石垣御修復控』も、島原城の石垣の修補に関する文献資料である事を付記しておく。
- ※ 島原城の修補許可については、白峰句「肥前国島原城修補許可の老中奉書について－島原市本光寺所蔵史料の史料調査より－」（『別府大学大学院紀要 7』2005）を参照した。

その他

- ※ 「その他」には、まず冒頭に『隣国様子聞合帳』（神戸大学文学部 日本史研究室蔵『中山川家文書』（1987臨川書店）所収187号文書（参考））と『幕府隠密復命書（筑前筑後肥前肥後探索書）』（長崎歴史 文化博物館13-296 絵図番号1）との2資料を部分収録した。前者は挿図を含むものの、いずれも絵図資料とは異なるが、築城して間もない寛永期頃の島原城の様子が記載されており、絵図資料にも匹敵する情報を有している。
- ※ 次いで、『三ノ丸絵図』（松平文庫72-89、絵図番号2）や『興慶園御住居替新建御家差図』（本光寺1885、絵図番号3-1）といった、城内の建築物単体を主題とした絵図から、城内（郭内）→島原城下全体→島原半島と、番号が降るにつれて描写領域が広い絵図を原則として配した。
- ※ 上記の原則とは異なる絵図もある。
 - 特に臼杵市教育委員会所蔵の絵図は、臼杵藩主・種葉家に伝わったものであるが、高力高長が島原藩主を改易され、その後に松平忠房が入部するまでの間のうち、寛文八（1668）年5月から同年12月まで、臼杵藩が島原城の在番を担当した経緯から、いずれも作成年代が寛文八年前後に限定されるものと推測する。島原に関する現存の絵図としては比較的古く、しかも修補絵図以外で作成年代が限定的である事も稀である事から、『嶋原合戦絵図』（資料番号②-303、絵図番号24）のような、今回掲載した絵図の主題とは趣を異にするものも含め、調査した絵図13点を全て掲載した。
- ※ 今回は島原城に主眼を置いた調査であったため、とくに島原半島を描いた絵図については未調査のものが多く、今後の課題としたい。

☆修補絵図および関連資料

1-1 〔島原城之図〕（1672・寛文12）本光寺788





1-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 175



(本文)

以上

嶋原城先懸門虎口
取直之新規石垣築之事
田町口門南之脇石垣崩候所
并孕候所如元築直之事
本丸石垣孕候四ヶ所取崩之
事
如元築直之事冠木門
武箇所新規建之事

松平主殿頭頭

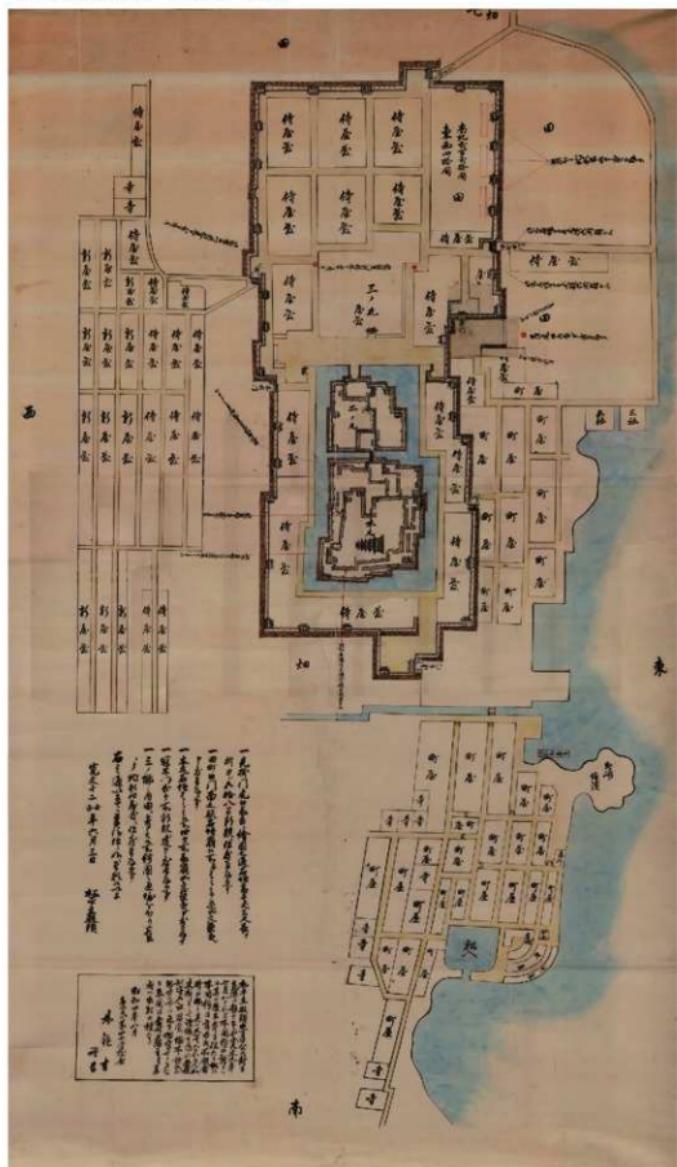
三丸之田堀以其土
地形築立之事得其
意候繪図之通及
上開候処連々普請可
申付之旨被仰出候
可被存其趣候恐々
謹言

寛文十二子
六月六日

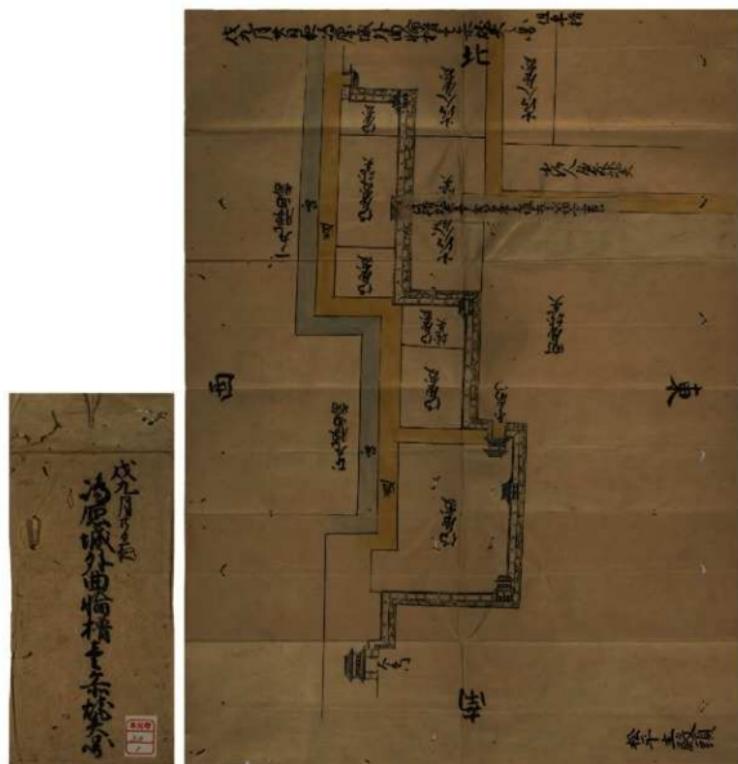
久世大和守 廣之(花押)
板倉内膳正 重矩(花押)
土屋但馬守 敷直(花押)
稻葉美濃守 正則(花押)

松平主殿頭頭

1-3 旧島原城内外図繪 松平文庫 絵図6

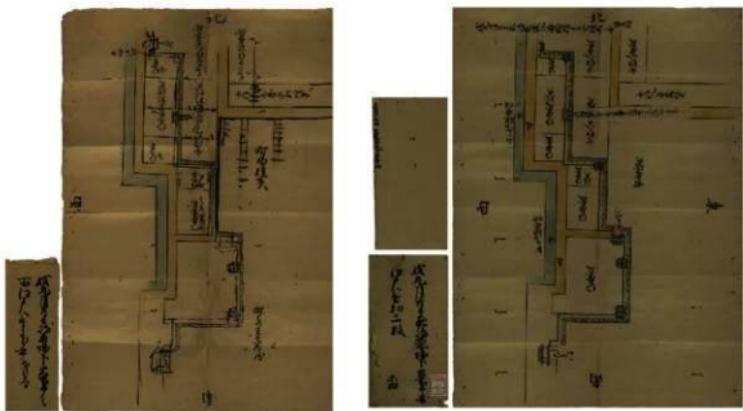


2-1 戊九月廿日夜嶋原城外曲輪櫓壘ヶ所焼失之図（戊〔1682・天和2〕）本光寺30-1



（封筒上書）
戊九月廿日夜
嶋原城外曲輪櫓壘ヶ所焼失圖

2-2 (右) 戊九月廿日夜嶋原城外曲輪櫓壱ヶ所焼失之図 (戊〔1682・天和2〕) 本光寺 30-2-1
 2-3 (左) 戊九月廿日夜嶋原城下火事之所江戸へ遣候下書 (戊〔1682・天和2〕) 本光寺 30-2-2

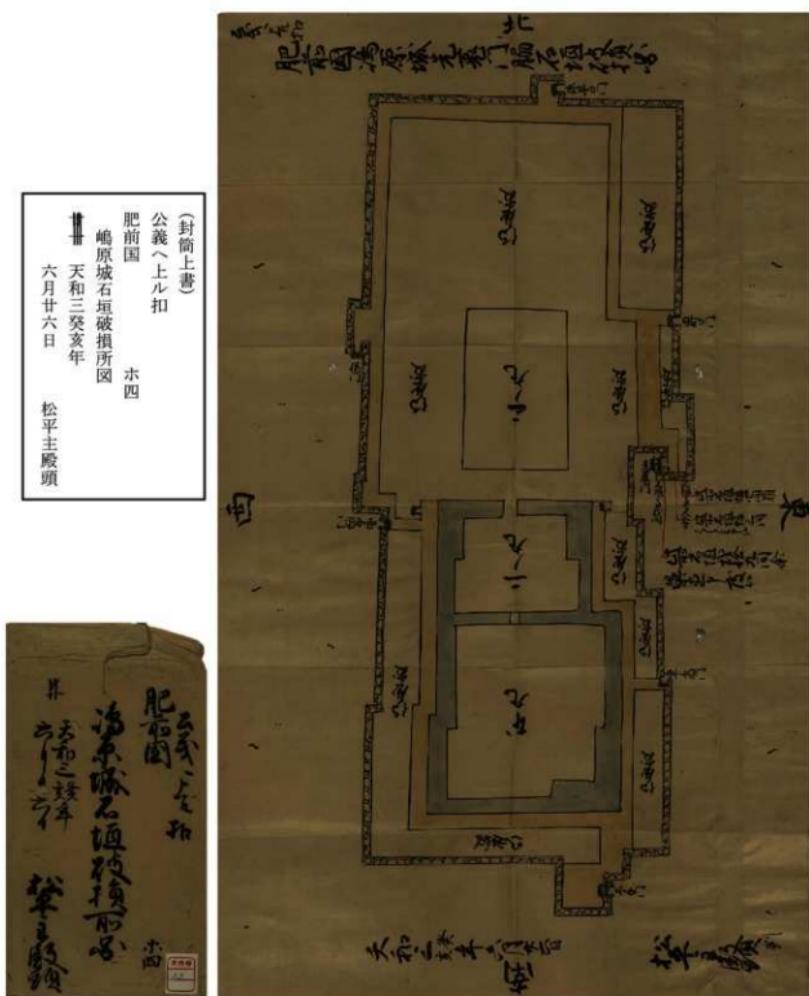


(裏書)
 戊九月廿日夜嶋原城下火事之所江戸へ遣候下書
 九月廿二日

(封筒上書)
 戊九月廿日夜嶋原城下火事圖
 江戸へ遣扣二枚
 十一月三日
 (裏書)
 右京亮迄遣扣

(参)『万日記(島原藩日記) 天和二年九月』
 (天和二年九月廿日)
 今西之半刻土橋麻右衛門轉留守家より火事出来、
 中村丈右衛門家焼失、三会町別当伊兵衛家迄焼
 移、夫より山崎作太夫・畠田茂七・宇野善次郎・
 失、中町・下町・宮町六七軒残、亥之刻火鎮候事

3-1 肥前国崎原城先薙門脇石垣破損図（1683・天和3）本光寺 23



3-2 〔幕府老中連署奉書〕 本光寺 33



(包紙付)

「天和三癸亥年七月四日阿部費後守より來 同奉書目付ハ

六月廿九日

嶋原先菟門脇石垣破損二付築直之 儀相寢相濟御奉書

木四一

(同上書)

大久保加賀守

松平主殿頭殿

阿部費後守

(本文)

以上

肥前国嶋原城石垣

東方先菟門之脇

壱ヶ所崩壊ヶ所孕

壱ヶ所は築直之事

繪図之通得其意候

如元可有普請候

恐々謹言

天和三亥

六月廿九日

阿部費後守

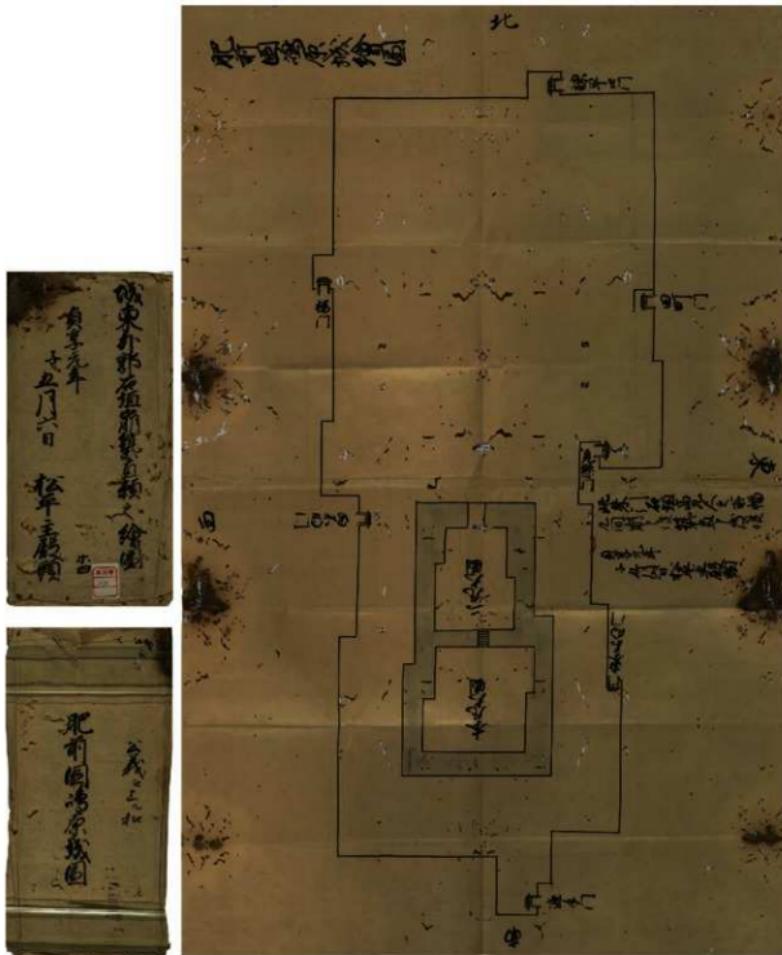
忠朝

(花押)

大久保加賀守

松平主殿頭殿

4-1 肥前国鳴原城絵図（1684・貞享元）本光寺24



（封筒上書表）
城東外郭石垣崩築直願之絵圖
貞享元年
公義之上ル扣
子五月六日
松平主殿頃

（同裏）

（文面）

此朱引石垣高九尺之所幅
九間崩申候築直申度候

貞享元年

五月六日

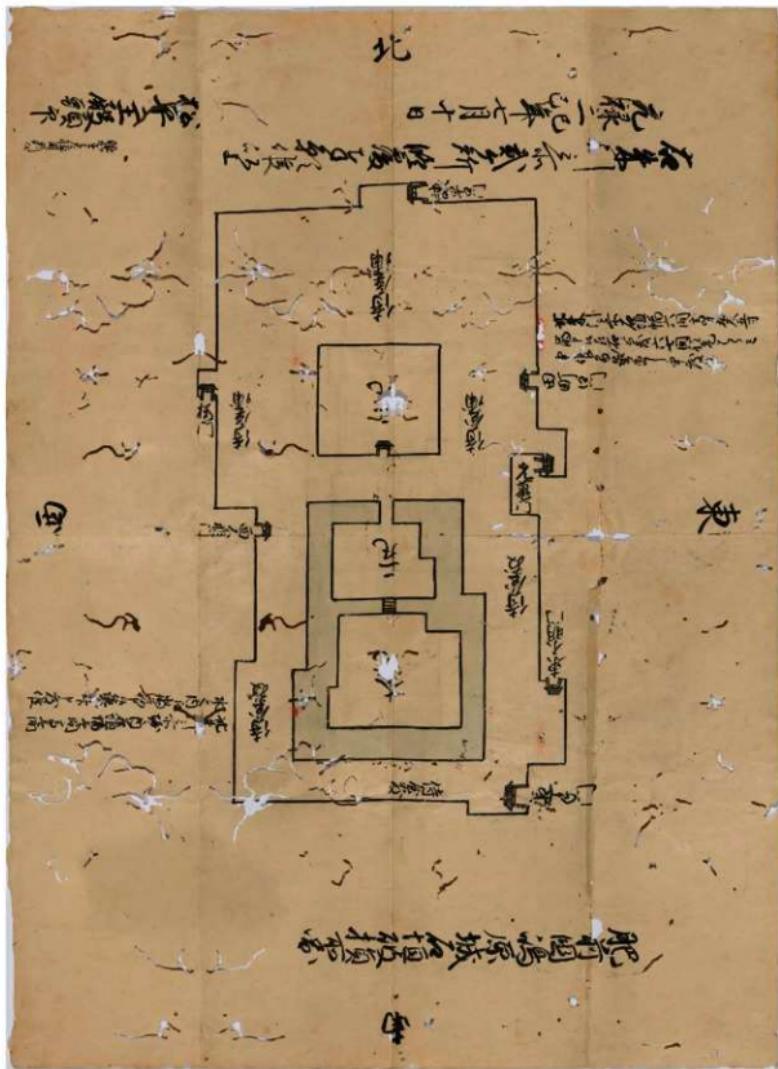
松平主殿頃

4-2 〔幕府老中連署奉書〕 本光寺 155



		(本文)
以上		
肥前国嶋原城		
外曲輪東方		
石垣老齢所崩候		
付而築直之事		
繪図之通得		
其意候如元可有		
修補候恐々謹言		
貞享元子		
五月廿七日		
阿部豊後守	正武 (花押)	
戸田山城守	忠昌 (花押)	
大久保加賀守		
忠朝 (花押)		
松平主殿頭殿		

5-1 肥前国崎原城石垣破損所図（1689・元禄2）本光寺1



(文面)

右朱引之所武ヶ所修覆奉願候以上
元禄二己巳年七月十日

眼かすみ乍櫛用印判候
松平主殿頭印

5-2 [幕府老中連署奉書] 本光寺 161-1



(包紙上書 1)

元禄二己巳七月十一日阿部豊後守殿御渡
赤四
鳩原城本丸脇并田町門脇

□〔石〕垣築直之儀願相済御奉書

(同2)

元禄二己巳七月十一日阿部豊後守殿御渡
大久保加賀守
戸田山城守

松平主殿守殿

大久保加賀守
戸田山城守

土屋相模守
阿部豊後守

(本文)

以上

肥前国鳩原城
本丸坤之方石垣

壱ヶ所三丸艮之方
田町口門脇石垣

毫々所或崩或孕候
付而築直度之由

繪図朱引之趣
得其意候如元可有

修補候恐々謹言

元禄二己
七月十六日
阿部豊後守
正武
(花押)

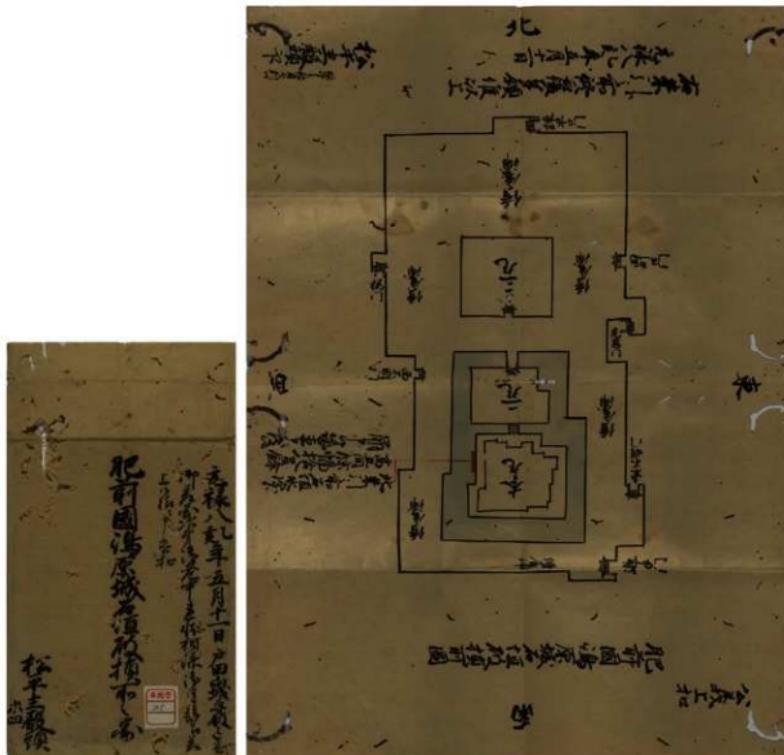
土屋相模守
政直
(花押)

戸田山城守
忠昌
(花押)

大久保加賀守
忠朝
(花押)

松平主殿頭殿

6-1 肥前国崎原城石垣破損所図（1695・元禄8）本光寺 25



6-2 〔幕府老中連署奉書〕本光寺 34



(包紙上書1)
島原城本丸西之方石垣崩修覆
願二付而之奉書

ホノ四

(同2)

大久保加賀守
阿部費後守

ホノ四

松平主殿頭殿

土屋相模守
戸田山城守

(本文)

以上

肥前国嶋原城

本丸西方石垣

壇ヶ所崩候付而

築直度之旨給國

朱引之通得其意候

如元可有修補候

恐々謹言

元禄八亥

六月九日

戸田山城守

土屋相模守

政直(花押)

正武(花押)

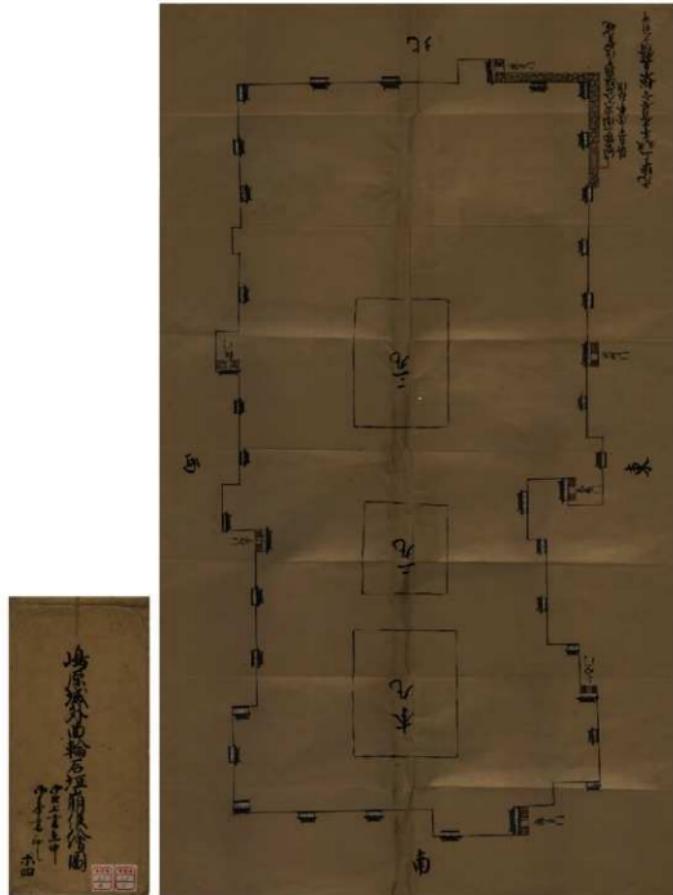
(花押)

松平主殿頭殿

大久保加賀守

忠朝(花押)

7-1 島原城外曲輪石垣崩候絵図（1700元禄13・正月）本光寺21-1



(封筒上書)

島原城外曲輪石垣崩候絵図

御口上書在中

御奉書無之

木四

(文面)

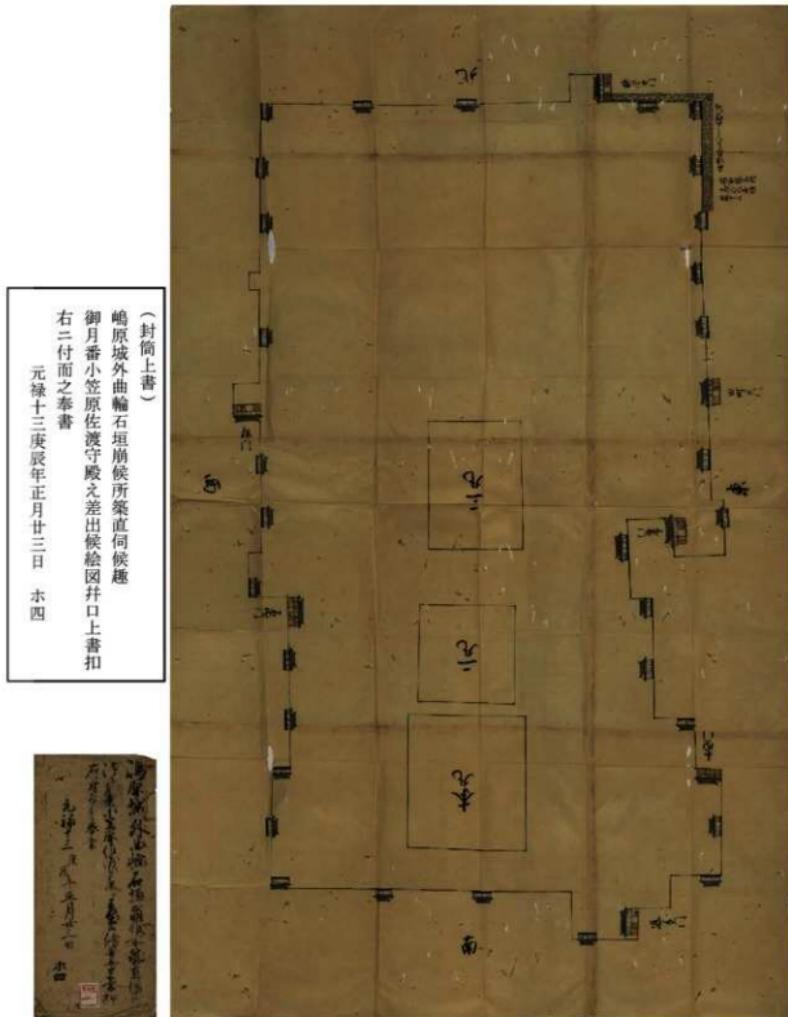
此所幅三間高六尺石垣崩申候如先規

築直申度奉存候

元禄十三庚辰年正月廿三日

松平主殿頭すへ判計

7-2 〔島原城外曲輪石垣崩修覆願ノ添図〕(1700・1・元禄13・正) 本光寺 22



7-3 〔幕府老中連署奉書〕 本光寺 246



(包紙上書1)

嶋原城外曲輪石垣崩候所如元

可築直旨御奉書

元禄十三辰年正月廿七日小笠原佐渡頭より被渡

(同2)

松平主殿頭殿
阿部豊後守
土屋相模守

秋元但馬守
小笠原佐渡守

(本文)

以上

肥前国嶋原城

從三丸北東之間

外曲輪石垣

老ヶ所崩候付而

築直旨繪圖

書付之通得其意候

如元可有修補候

恐々謹言

元禄十三辰
正月廿六日

小笠原佐渡守
長重 (花押)

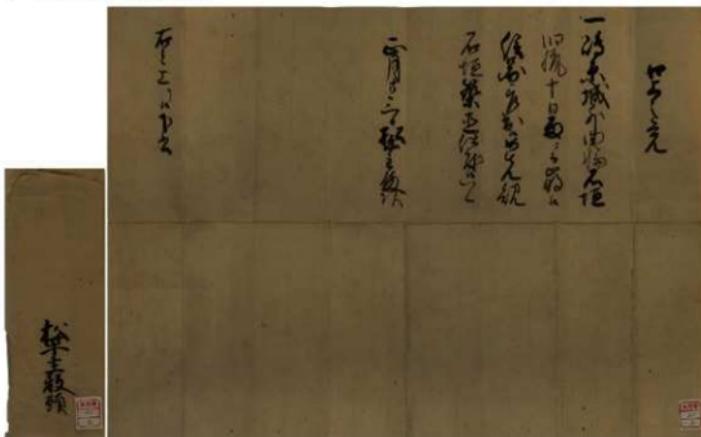
秋元但馬守
喬朝 (花押)

土屋相模守
政直 (花押)

阿部豊後守
正武 (花押)

松平主殿頭殿

7-4 口上之覚 本光寺 21-2



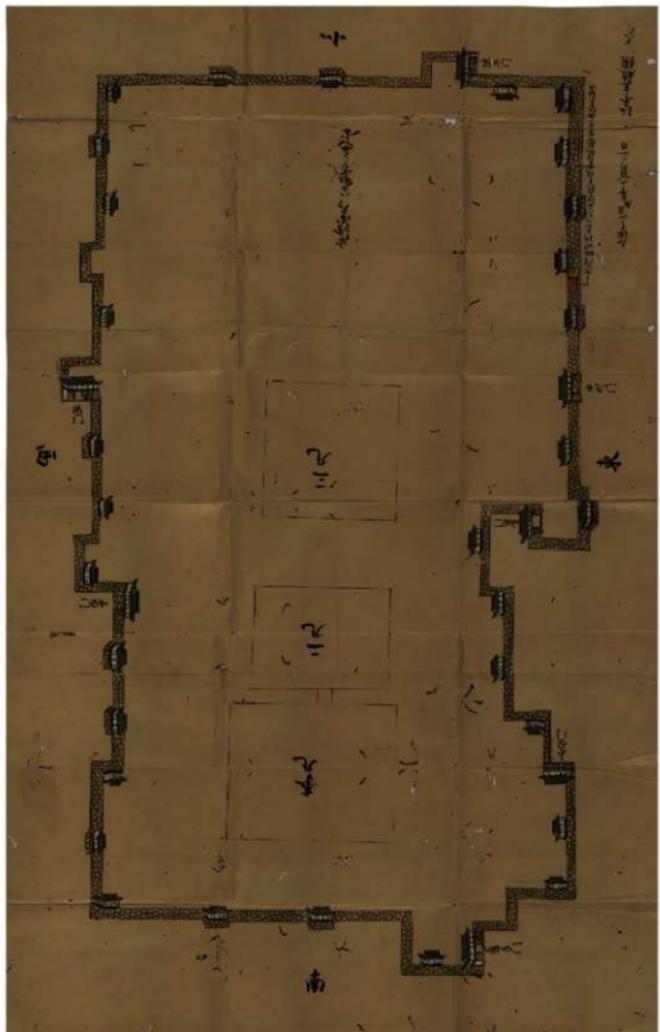
(本文)
（包紙上書）
松平主殿頭

口上之覚

一嶋原城外曲輪石垣
旧臘十日雨二而崩候
繪圖差出候如先規
石垣築直仕度候以上
正月廿三日 松平主殿頭

右は上り候下書

8-1 [島原城石垣崩修覆願図] (1700・6・元禄13・6) 本光寺 26



(文面)

此所幅四間高六尺石垣崩申候如先規築直申度奉存候
元禄十三庚辰年六月三日 松平主殿頃すへ判

8-2 〔幕府老中連署奉書〕 本光寺 241



(包紙上書1)

元禄十三庚辰年五月（ママ、六カ）三日嶋原城外曲輪東之方石垣崩候付
如先規築直仕度旨伺候處如元修補可致旨之

御奉書 一通

六月九日秋元但馬守殿二而岩永太左衛門請取

(同2)

阿部豊後守
土屋相模守
松平主殿頭殿

小笠原佐渡守
秋元但馬守

(本文)

以上

肥前国嶋原城

從三丸東之方

外曲輪石垣壟ヶ所

崩候付面築直度旨
繪図朱引之通得其意候如元可
有修補候恐々

謹言

元禄十三辰
六月九日秋元但馬守
小笠原佐渡守喬朝（花押）
長重（花押）政直
正武
(花押)

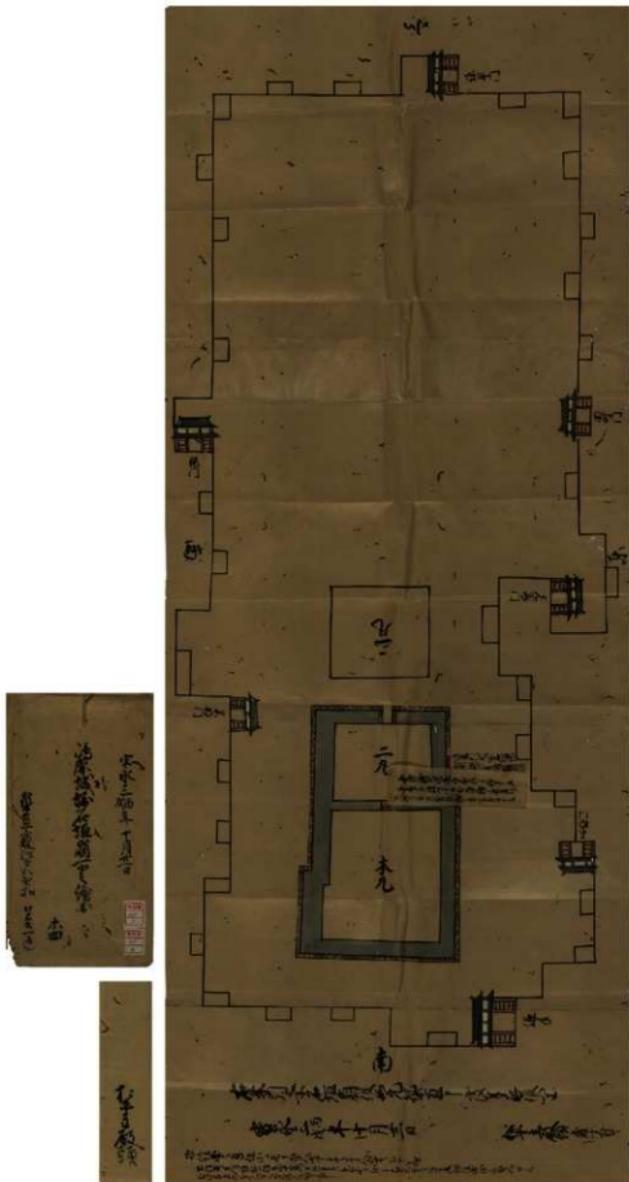
松平主殿頭殿

阿部豊後守

土屋相模守

阿部豊後守

9-1 島原城堀石垣崩所之絵図（1706・宝永3）本光寺 27-1



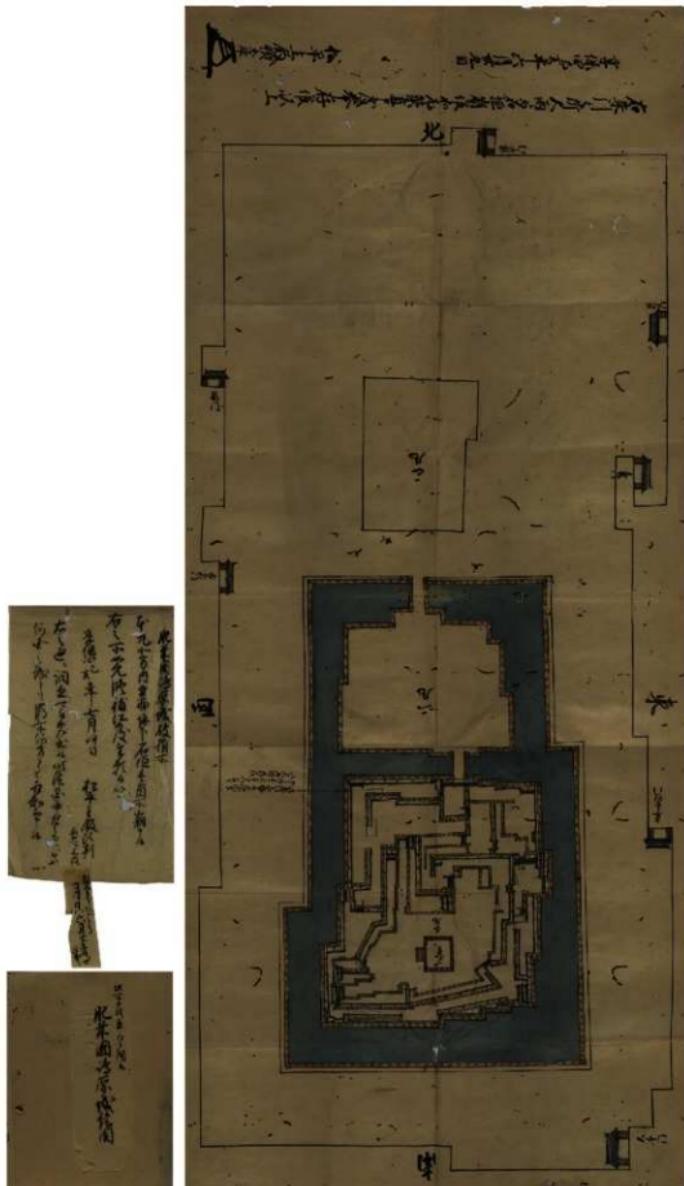
<p>(本文)</p> <p>宝永三丙戌年十月廿一日 崎原城塙石垣崩所之繪図</p> <p>築直窪江戸へ遣扣</p> <p>木四</p> <p>口上書一通</p>
<p>(文面)</p> <p>(付箋)</p> <p>「此附紙如此藤九郎様二面附申候 致シ間ヲ置附紙之通書付可申候」</p> <p>右朱引之所石垣崩候如元築直申度奉存候以上</p> <p>宝永三丙戌年十月廿一日 松平主殿頭 忠雄 すへ判計 此繪図之通但小メ長サ武尺七寸たて壱尺五寸ニシテ遣 右繪図ニ而伺明候但太田十右衛門申候ハ重面ハ今少小ク致し候是ハ大まかニ候間委細繪図致差出候様ニ申候 尤此節連状をも江戸ニ面認差出候事</p>

9-2 口上之覚 本光寺 27-2



<p>(本文)</p> <p>肥前崎原城塙石垣崩候 繪図仕差出候如先規 築直申度奉存候以上</p> <p>十月廿一日 松平主殿頭</p>
<p>(包紙上書)</p> <p>松平主殿頭</p>

10-1 肥前国崎原城絵図 (1719・享保4) 本光寺 29



(封筒上書)

此所如此直可被調候

肥前国嶋原城絵図

(文面)

右朱引之所大雨ニ而石垣崩候如元築直申度奉存候以上

享保四己亥年六月廿九日 松平主殿頃 忠雄 (花押)

(付箋1)

肥前国嶋原城破損所

本丸北方内曲輪堀下石垣老築所崩申候

右之所如元修補仕度奉願候以上

享保四己亥年七月四日 松平主殿頃判

名乗二不及

右之通ニ調直可被差出候此絵図書付之通ニ而ハ

何国之城とも崩所何方とも相知不申候

(同2)

小林五兵衛申候ハ

やはり

月日ハ六月廿九日ニ可被成候

④

一 公儀より相渡居候絵図ハ事之外大まかニて、門々
のわたりも達候、此度之絵図太手前ニて「こしら
へ候板絵圖ニて仕立候、尤前方も右板絵圖ニて仕
立差出ニ付不得已、其上委方可然と右板絵圖ニて
こしらへさせ候已後ハ、公義より渡り居候絵図と
見合相認可申事也、為心得記之

一 奉書連名之順達出候、前方もケ様ニ有之、其節御

請ニハ座並順之通相認候と覺候、此度も可為其通

哉ニ候へ共、為念奉書名順之通一通座置順之通一

通両様ニ認、江戸ニて様子次第一通可相勧旨申遣

候、山城殿役人え承候処、座並順之通ニてよく候、

尤御用番え差出候様ニとの儀ニて、月番井上河内

守殿へ差出由申来候事

一 石垣崩所朱引も前方ハ崩所計朱ニていたし、夫よ

り墨ニて引出し、此朱引之所何様■書候へとも、

夫ニてハ右朱引の所とハ不被申候、朱ニて引出し

候様ニとの義也

一 此絵図之書付所あの方より好之通也、最初遣候絵

図ニハ三丸門等も不書遣、是もこのミニて門等書

付候

一 絵図返り候付絵図并連状ニも月日不書付遣、江戸

にて書候様ニ申遣、尤此段も江戸より申来候、前

方絵図之通六月廿九日付ニいたし差出由申來

候、此度之絵図九月十二日便ニ遣候へとも、奉書

日付ハ七月廿八日之日付ニて相渡候義ハ、十月廿

二日山城殿より奉書出候

⑤

一 已後山城殿え櫻武太夫罷越候節、小林又兵衛申候
ハ、先頃之絵図ハ御本丸ニ納り候、あの方扣ニ入
候間、美濃紙ニても清張紙ニてもざつと絵図こし
らへ、書付ハ前方之通致越候様ニ申来付、美濃紙
ニていたさせ遣候、尤判ハ不居也

10-2 本丸之内石垣崩所伺絵図之覚書 本光寺 28-2

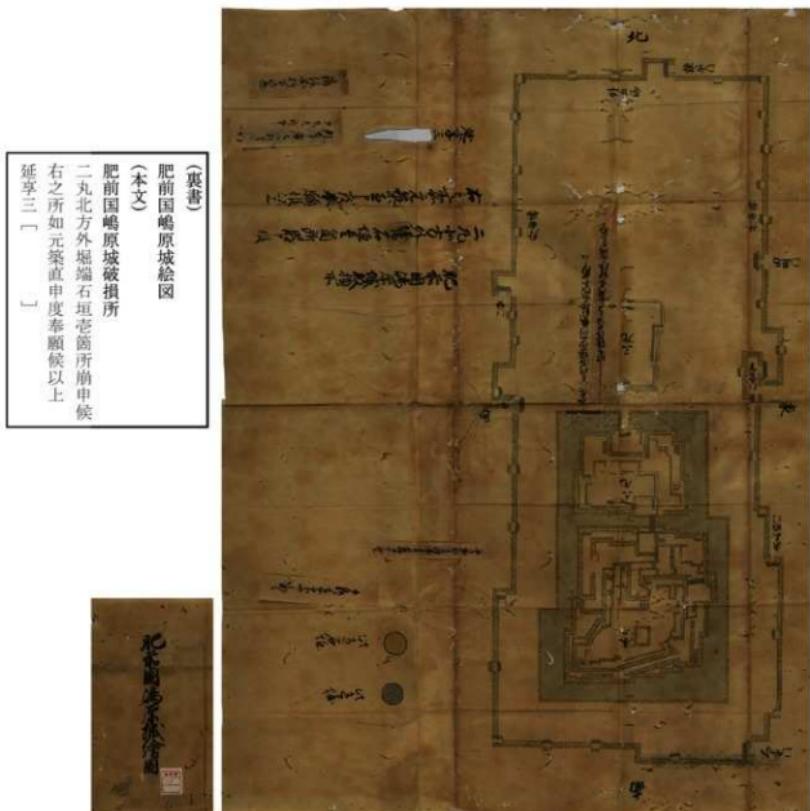


名乗判	名	名乗判	名
井上河内守様	井上河内守様	久世大和守様	久世大和守様
戸田山城守様	戸田山城守様	水野和泉守様	水野和泉守様
参人々御中	参人々御中	右二付奉書	右二付奉書
以上	以上	肥前国嶋原城本丸北方内曲輪下石垣老箇所崩候 付而、如元修補致度旨絵図朱引之通得其意候、 願之通可被申付候、恐々謹言 享保四亥 七月廿八日	肥前国嶋原城本丸北方内曲輪下石垣老箇所崩候 付而、如元修補致度旨絵図朱引之通得其意候、 願之通可被申付候、恐々謹言 享保四亥 七月廿八日
戸田山城守	戸田山城守	水野和泉守様	水野和泉守様
久世大和守	久世大和守	戸田山城守様	戸田山城守様
井上河内守	井上河内守	井上河内守様	井上河内守様

名乗判	名	名乗判	名
井上河内守様	井上河内守様	久世大和守様	久世大和守様
戸田山城守様	戸田山城守様	水野和泉守様	水野和泉守様
水野和泉守様	水野和泉守様	戸田山城守様	戸田山城守様
戸田山城守	戸田山城守	井上河内守様	井上河内守様
久世大和守	久世大和守	戸田山城守様	戸田山城守様
井上河内守	井上河内守	井上河内守様	井上河内守様

一絵図一巻用、板倉人右衛門・奥山幸左衛門・懸ル前
二差出候扣を以書立六月廿九日差等候處、戸田山城
殿御用番二面段々好有之、二ノ丸より内之門々名も
可有、委細に書付候様三との義ニて不相濟右絵図ハ
返ル、江戸ニ而承候趣下絵図致差越、其趣を以又絵
図仕立遣、外側門々ハ古來より唱来ル名ニ候、二ノ
丸より内之門々ハ古來より名無之粉敷ニ付、只今私
ニ唱候名ニ候、夫故急度、公儀え差出書付ニハ難致
二付、外ニ美濃紙ニ而絵図こしらへ二ノ丸より内之
門々之名付札ニいたし、私ニ申候名ニても可書付訣
ニ候ハ、江戸ニ而書付様ニ申遣候得共、右之段申
達候ハ、なにの沙汰なく二ノ丸より内之門々之名ハ
不書載由申來候、尤初遣候絵図御右筆共などハ是ニ
ても事可済儀と被申候由之事

11-1 肥前国島原城絵図（1746・延享3）本光寺17



11-2【絵図封筒】本光寺 840



11-3【幕府老中連署奉書】本光寺 268



(包紙上書1)

二丸外堀端石垣崩候御修補御願相済候付而之

御連名御奉書 一通 島原

木四

寅七月十六日之御日付二而翌十七日晚

御用番西尾隱岐守様より御用人を以御渡

(同2)

酒井雅楽頭

松平主殿頭殿

堀田相模守

西尾隱岐守

以上

肥前国嶋原城

二丸北之方外堀端

石垣毫箇所崩候付而

築直之事絵図

朱引之趣得其意候

願之通如元可被申付候

恐々謹言

延享三寅

七月十六日

西尾隱岐守

忠直

(花押)

堀田相模守

正亮

(花押)

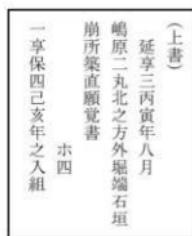
酒井雅楽頭

忠知

(花押)

松平主殿頭殿

11-4【覚書封筒】本光寺 28 (10-2、11-5が入る)

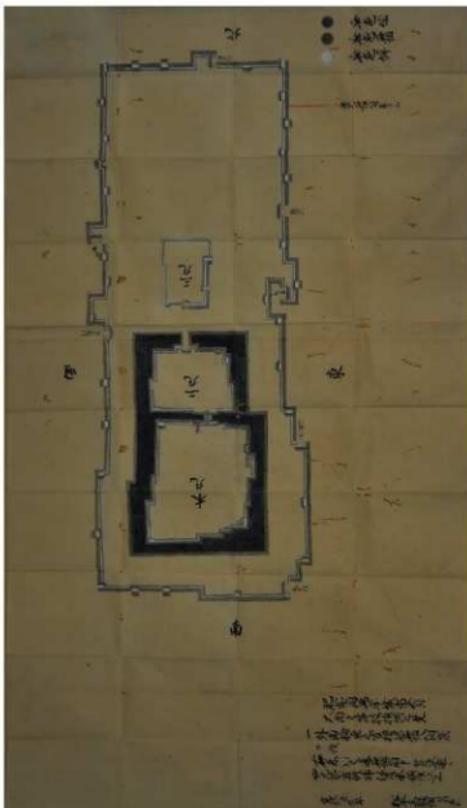




11-5 嶋原二丸北之方外堀端石垣老齋所如元築直願相済候覺書 本光寺 28-2



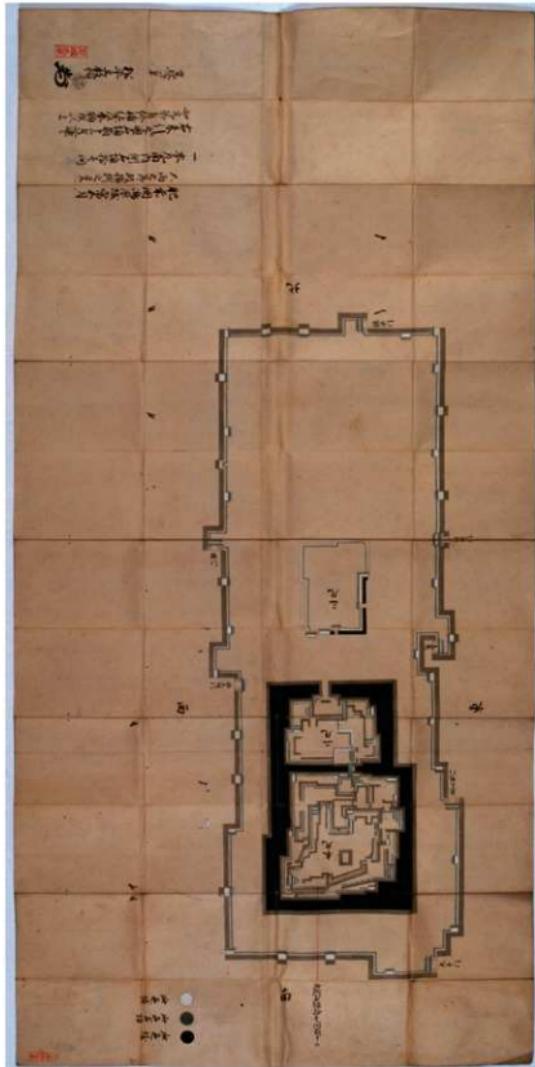
12 肥前国島原城絵図（1790 寛政2）長崎歴史文化博物館3-740



（裏面）
肥前國島原城當五月
大雨之節破損所之覺
申候
一外曲輪東之方櫓脇石垣八間崩
右朱引之通石垣崩申候付以速々
如元築直修補仕度奉願候以上
寛政二庚戌年 松平主殿頭 印判 居判

94

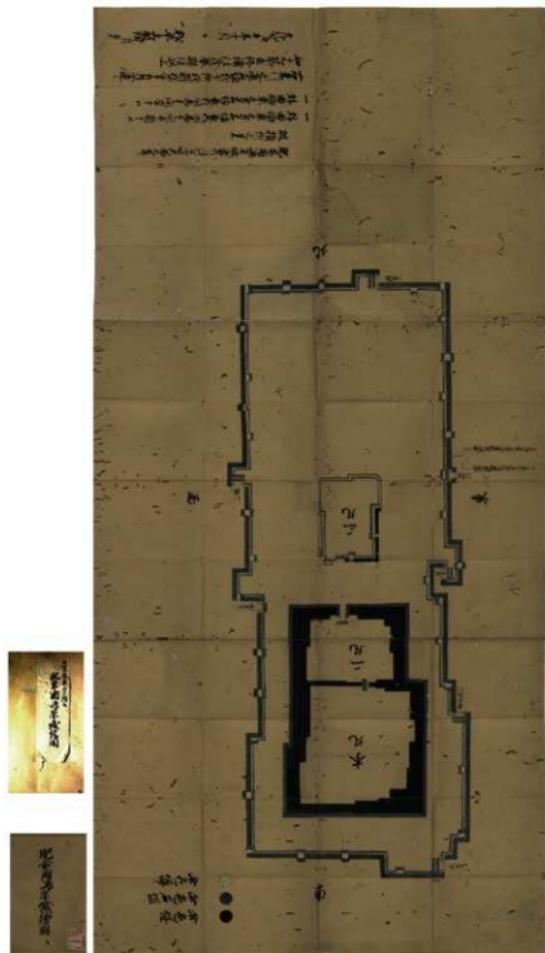
1.3 島原城絵図（1797・寛政9）西尾市岩瀬文庫 子—153



(文面)

肥前国島原城当五月
大雨之節破損所之覺
一本丸南内側石垣崩申候付以連々
右朱引之通石垣崩申候付以連々
如元築直修補仕度奉願候以上
寛政九丁巳年 松平主殿頭(印判)(花押)

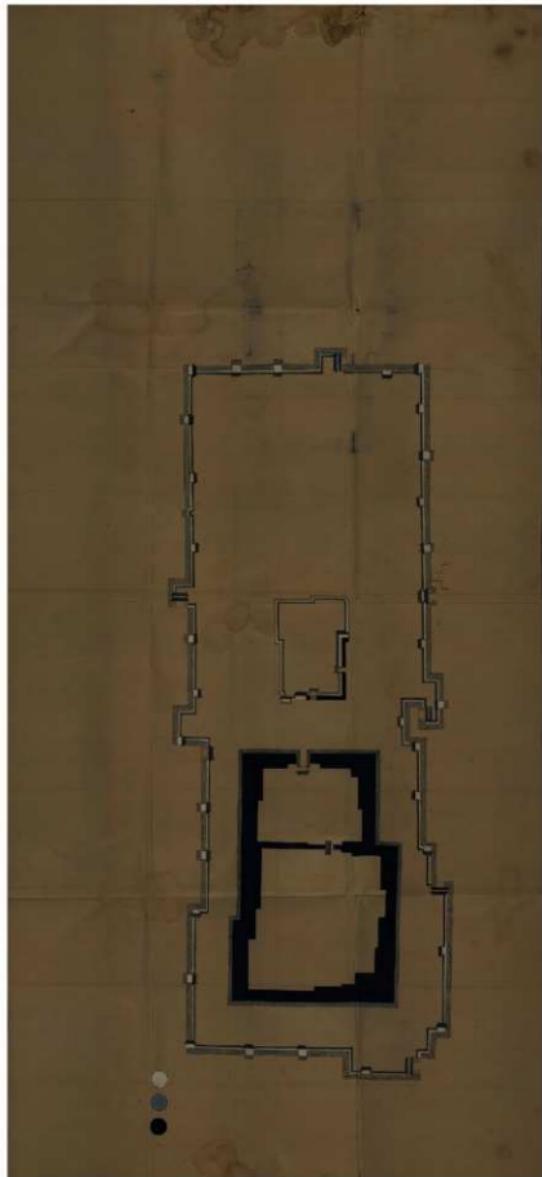
14-1 肥前国嶋原城絵図（1810・文化7）本光寺 1918



(裏書)
肥前国嶋原城絵図
(付札)
此所如此直可被調候
肥前国嶋原城絵図

(文面)
肥前国嶋原城當六月六日七日大雨之節
破損所之覧
一外曲輪東之方石垣長五間高壹間半崩申候
右朱引之通石垣式ヶ所或崩或孕申候付以速々
如元築直修補仕度奉願候以上
文化七庚午年十月
松平主殿頭 印判 居判

14-2 [島原城絵図] (〔1810・文化7〕) 本光寺 1868



115・肥前国鳴原城当八月八日風雨之節破損所之覧 本光寺 115 (1829・文政12)
 • 肥前国鳴原城絵図 松平文庫 72-83



(文面)

肥前国鳴原城当八月八日

風雨之節

外曲輪東之方石垣長八間高二間余
崩申候

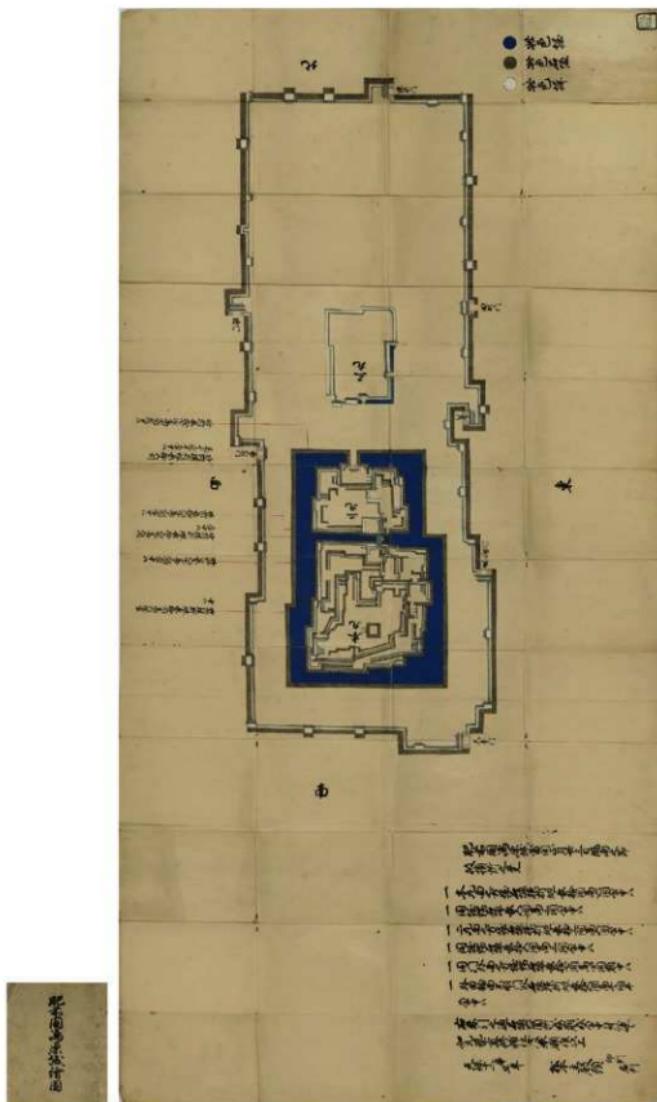
右朱引之通石垣崩申候付以連々

如元築直修補仕度奉願候以上

文政十二己丑年十月 松平主殿頭
印判 居判

72-83 肥前国鳴原城絵図 4
(松平文庫藏)

1.6 肥前国崎原城当閏正月廿三日風雨之節破損所之覚（1840・天保12）九大文化史 元山 174-214



(裏書)
肥前国嶋原城絵図

(文面)

肥前国嶋原城当閏正月廿三日風雨之節

破損所之覺

一本丸西之方堀石垣横折廻長拾間高六間孕申候

一同堀端石垣長五間高三間孕申候

一二丸西之方堀石垣横折廻長拾三間高五間孕申候

一同堀端石垣長拾五間高三間孕申候

同門外西之方堀端石垣長拾七間高四間崩申候

一外曲輪西不明門外石垣横折廻長拾五間高一丈間半

孕申候

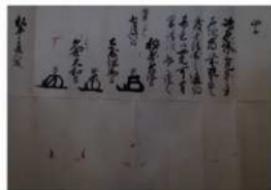
右朱引之通石垣六箇所或崩或孕申候付以連々

如元築直修補仕度奉願候以上

天保十二辛丑年 松平主殿頃 印判 居判

☆補遺

1 老中連署奉書（1675・延宝3）本光寺 32



(付札)

「島原城三丸東之方石垣築
直付奉書」

(包紙上書)

延宝三卯七月六日 小四
松平主殿頭殿 稲葉美濃守
久世大和守 土屋但馬守

(本文)

以上
島原城三丸東之方
石垣崩候所築立之
度由繪図之通得

其意候如元可有
普請候恐々謹言
延宝三卯

七月六日

稲葉美濃守

正則

(花押)

土屋但馬守

数直

(花押)

久世大和守

廣之

(花押)

松平主殿頭殿

2-1 老中連署奉書（1728・享保13）本光寺 242



(包紙上書1)

享保十三戊申年島原城外曲輪石垣崩或窶候付

築直之義窶繪國并添書扣右二付連名奉書一通

此繪図一卷御右筆組頭鷹川八右衛門殿又得内意繪図

書付之致様添書之文言等八右衛門殿差図之通ニ認

絵国判八此方先格之通ニ可致旨二付如先格居判計

右繪図三月廿七日御用番松平左近将監殿又差出「

四月六日奉書出候此御請之義當時依在府並承合候處

自身被勤候衆も有之又は使者ニ而被勤方也有之候

此方ハ六日ニ奉書出御請之義承合二付間延ニ成候故翌日

左近将監殿又自身相越

(同2)
享保十三申四月六日松平左近将監殿より相渡
島原城外曲輪石垣築直之儀付連名之奉書
小四

留宿居被呼被相渡岩水友太夫請取來

(同3)
享保十三戊申年四月六日松平左近将監殿又
島原城外曲輪石垣築直之儀二付連名奉書

松平主殿頭殿
松平左近将監
水野和泉守

(本文)	以上
肥前国鳩原城外曲輪	
東方田町門外南方櫓井	
堀下石垣折廻老ヶ所同所	
北方櫓井堀下石垣老ヶ所	
同続櫓脇堀下石垣老ヶ所	
同櫓井堀下石垣老ヶ所或崩	
繪図朱元之通得其意候	
以連々如元可有普請候	
恐々謹言	
享保十三申	
三月晦日	
松平左近将監	
水野和泉守	
忠之 (花押)	
松平主殿頭殿	



2-2扣 ([1728・享保13]) 本光寺 161-2



3 [絵図奉書等包紙] 本光寺 1036



一島原城絵図	一同先萬門虎口新規石垣築直願二付奉書
同三丸東方右石垣築直二付奉書	同三丸東方右石垣築直二付奉書
同先魁石垣築直願二付而之奉書	同先魁石垣築直願二付而之奉書
同石垣破損所圖	同石垣破損所圖
同東外廓石垣築直願之繪圖	同東外廓石垣築直願之繪圖
同外曲輪東方右石垣築直願二付而之奉書	同外曲輪東方右石垣築直願二付而之奉書
同石垣破損所繪圖控	同石垣破損所繪圖控
外曲輪石垣五月三日事ニ而崩候付築直度口上書	外曲輪石垣五月三日事ニ而崩候付築直度口上書
同本丸并三丸田町口門脇石垣築直付奉書	同本丸并三丸田町口門脇石垣築直付奉書
同外曲輪櫓老ヶ所焼失図并城下火事図	同外曲輪櫓老ヶ所焼失図并城下火事図
江戸え遣扣式一枚	江戸え遣扣式一枚
一同石垣破損所之圖	一同石垣破損所之圖
(端裏書)「扣 松平主殿頭一」	水ノ四 武袋之内
肥前国鳩原城外曲輪東方	
田町門外南方櫓井堀下石垣	
折廻老ヶ所高八尺長百三拾五間	
同所北方櫓井堀下石垣老ヶ所	
高八尺長七拾八間同続櫓脇堀下	
石垣老ヶ所高老間長武間半	
同櫓井堀下石垣老ヶ所高八尺	
長百六拾老間半或崩或窪候付而	
築直之以連々如元普請仕度	
奉願候宜様御差図被成	
可被下候以上	
判なし	
三月廿七日	
松平主殿頭	

③

百式拾目
六拾三匁
三拾六匁
七拾九匁五分
三匁
五拾四匁
九匁八分
四匁七分四厘
武拾七匁

六寸廻竹四拾本
中柄竹六束
腕本式拾四本
道板五拾三枚
櫻小割式本
野木舞三拾挺
杉裏側老挺
杉廊縁老挺
杉瓦棟四挺

一
札五貫百九拾武匁老分七厘九毛 諸品代
内
八匁老分八厘四毛
武百五匁五分三厘
八拾五匁三分七厘四毛
三拾四匁九分六厘八毛
武百八匁六分九厘武毛
六百拾六匁三厘武毛
六百五匁九分八厘八毛
武拾武匁三分武厘
五百九匁老分七厘五毛
武拾老匁武分八厘
四匁武分
九百七拾老匁六分六厘六毛
三百四拾目三分七厘五毛
六百三拾四匁武分
三拾八匁武分五厘
百五匁
百五匁

毫寸釘四百本
毫寸五分釘六千五百本
武寸釘千五百三拾本
武寸五分釘四百本
三寸釘千八百七拾本
四寸釘武百千七百六拾本
五寸釘千八百拾本
長瓦釘八本
瓦釘三百六拾五本
六寸平錐四挺
釘銅拾五匁

④

四匁式分
老匁式分六厘
四拾目八分式厘四毛
九分
九匁八分
三匁武分
三匁武分
■毫
八匁
武匁四分
九分六厘毫毛
太平墨四拾挺
洪四升
紺屋刷毛武枚
百田紙七帖

草薙四拾五束
榎桜繩毫把
中繩武拾七束
松葉搔式本
■毫
太平墨四拾挺
洪四升
紺屋刷毛武枚
百田紙七帖

一

札五匁四分
内
老匁六分
八分宛

居越料

太田長藏日數二日

柴田喜久太夫
内田時助
原口兼之助
杯突かへ
榮之進

小久保良左衛門

六分

差引
△拾三貫六百五匁六分三厘毫毛
三貫五匁六分三厘毫毛不足

杉皮五拾坪
赤土七八百拾九
杯
中塗磨七石六斗五升
革葫四拾五貫三百目
布苔三拾八貫九百目
三百四拾目三分七厘五毛

4 御鉄炮櫓大御修復諸入用勘定帳扣（1864・元治元） 松平文庫 市費購入 811-1

(表紙) 元治元子年



御鉄炮櫓大御修復諸入用勘定帳扣	水谷梶兵衛 金森佐仲
石井民左衛門 田浦助左衛門 菅沼左弥太 中嶋陸太夫 馬場確三郎 山下馬之進	原口専六郎
七百三拾目 三分七厘五毛 四拾三勺四分	元治元子年
七百三拾目 三分七厘五毛 四拾三勺四分	水谷梶兵衛 金森佐仲
七百三拾目 三分七厘五毛 四拾三勺四分	元治元子年

①

請 一札拾貫六百目 一札七貫百毫八分毫厘或毛 一 内 諸雇賃 御金方より請	内 諸雇賃 上大工武百人 中大工五拾人 下大工五拾人 上整影七拾老人 上左官武百六拾九人七步 中左官武百六拾九人半 下左官三拾五人半 左官見習六拾三人 定雇四百七拾人 同四ツ時より老人 同立前拾五人六步六厘 三拾壹毫三分武厘 毫 内 百四拾武勺五分 五拾八勺五分 外通二段道掛拾五間 内通二段道掛拾三間 竹木代 杉丸太百四本 杉丸太五本 杉四寸貫八挺 杉武寸五步角毫挺 同六寸角毫挺 五寸廻竹八本
---	--

②

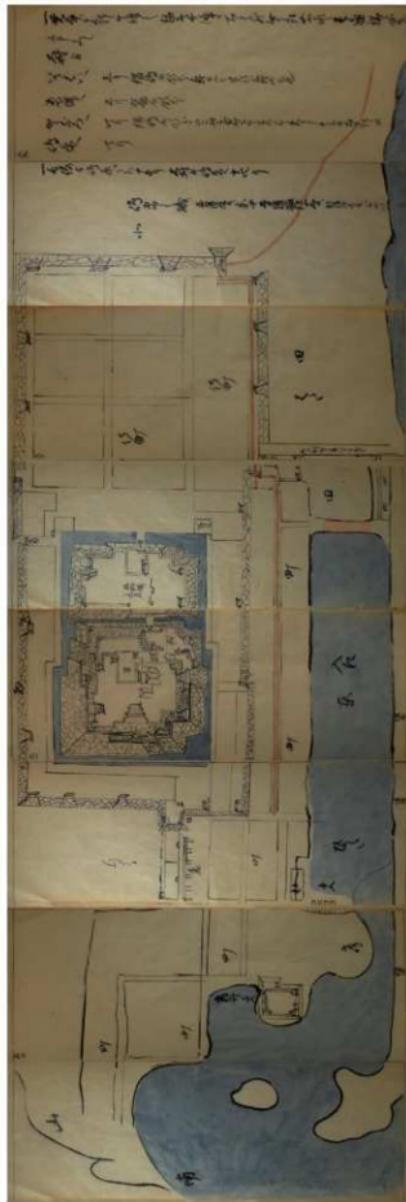
武百三拾五 三分七厘五毛 四拾三勺四分	同四百七拾人酒代 同老人四ツ時より酒代 定雇頭七兵衛久右衛門弥平 酒代日数六十二日分
七分五厘 武百六拾九勺三分武厘六毛 八勺九分四厘四毛 九百七拾八毫六厘或毛 四勺武分五厘 三拾老毫三分七厘八毛 武百毫勺	同四ツ時出武人酒代 八拾文雇武百武人 同立前拾武人毫步九厘 同三百六拾五人酒代 同四ツ時より五人 同立前武拾七人六步九厘 橋道懸定雇請負貸
内 百四拾武勺五分 五拾八勺五分 外通二段道掛拾五間 内通二段道掛拾三間 竹木代 杉丸太百四本 杉丸太五本 杉四寸貫八挺 杉武寸五步角毫挺 同六寸角毫挺 五寸廻竹八本	同四百七拾人酒代 同老人四ツ時より酒代 定雇頭七兵衛久右衛門弥平 酒代日数六十二日分

☆その他

<p>(参考) 隣国様子聞合帳（部分）（神戸大学文学部日本史研究室蔵 『中川家文書』（1982）臨川書店）所収</p> <p>一八七号文書</p>
<p>しま〔島〕原ノ覺</p> <p>一御しろ〔城〕内、御本丸と二ノ丸ノあい〔間〕ニ石かき〔垣〕たかゞ〔高々〕見へ申候、ほり〔堀〕ノひろさ〔広〕三十間ほどニ見へ申候、又大てぐら〔手口〕西むき〔向〕、御本丸内ニ西東ノあい〔間〕ニ五六間ほど〔程〕ノほり〔堀〕御座候、こくらく〔極楽〕ノはし〔橋〕と見へ申候、又ほり〔堀〕より西殿町也</p> <p>二ノ丸内ニ殿様ノ百疋馬家御座候ニ、皆々馬つなぎい〔繁居〕申候</p> <p>一玉葉之事、先殿ノ御だい〔代〕より過分ニ御座候間、いま〔今〕一二年ほど〔程〕不仕候由申候</p> <p>一ぶく〔武具〕御たしなみ〔嗜〕被成候ニより、鎧・矢ノね・てつぼうみかき〔鉄炮磨〕申者十人づゝ〔宛〕いま〔今〕ニかかり申由承候、又御たしなみ〔嗜〕ニぐそく〔貝足〕五六百りうほど〔領程〕御座候由申候</p> <p>一かミかた〔上方〕ノ御座候らう〔浪〕人衆へ五六六十人ほど〔程〕ニハ、いま〔今〕ニ銀子五まい〔枚〕十まいほどづゝ〔枚程宛〕ノ御心付被成候由申候</p> <p>一はや〔早〕舟三十ほど御座候よし〔由〕申候</p> <p>一奉公入かかへ〔抱〕無御座候</p> <p>一新ぼり〔堀〕無御座候</p> <p>一新ばし〔橋〕無御座候</p> <p>一新まち〔道〕無御座候</p> <p>一へいぶしん〔辨普請〕やぐらぶしん〔矢倉普請〕</p> <p>一あたけ〔安宅〕無御座候</p>

<p>御家中四ツ物成御さだめ〔定〕被成候由申候、又出銀など〔等〕年 ニより過分ニ出申ニ付、御侍衆御そせう〔訴訟〕にて御座候か、こ ん〔今〕年よりハ御ゆるし〔許〕可被成候由承候と、やと〔宿〕主 物語にて御座候</p>
<p>一在々之儀、まへかど〔前角〕よりありつき〔有付〕申由承候、又ミ しんかたなど〔未進方等〕ハ当年まで〔迄〕御のべ〔延〕被成、布 もめん〔木綿〕にても御さん〔算〕用被成候て被下候由申候、又布 もめん〔木綿〕も多所ノあき〔商〕人又とこう〔所〕ノあき〔商〕 人ねだん〔値段〕仕候てうりね〔充植〕ニ御さん〔算〕用ニたち申 由承候</p>
<p>一覺ノ衆之由申候 田中宗峯老</p>
<p>同 同 たかの〔多質〕主水殿</p>
<p>同 同 岡本新兵〔殿〕</p>
<p>同 金木善兵〔殿〕</p>
<p>宇田清兵〔殿〕</p>
<p>御ちなみ大村と承候、其外ハ不存候由申候</p>

1幕府隠密復命書（筑前筑後肥前肥後探索書）（部分）長崎歴史文化博物館 13-296



③

一舟入二舟を引のほせて置申所老そ々々々〔早々〕ニ石垣をつき〔築〕上ニ舟藏を作り申、
椿仕候、我等見申時、舟四そう〔艘〕分のほせ〔上〕申、石垣出来申候、又老ツ出来かゝ
り申候、何程も出来申と見へ地行を引候所、今出来申をそへ八十間地を椿候て御座候
上ニ在申舟藏場組申を見申候、三十間計の長さニ見へ申候。

一此地つゝき〔純〕海の方ニ老町四方程の高崎と申小山の島をかこ〔水主〕・鉄炮之者
五六百人ニ而四五日地行御引候由、我等見申候時も百程ニ而地引海ハうめ〔堀〕かけ広
く仕候、何ぞたち申、おととい〔一昨日〕申候、何と御座候モ不存候と申者も有、大
工ニ尋申候へは、しほ〔塙〕浜ニなると故と申候由申候。
一是より南ニ高崎に西東五十五間北南廿五間之丸有、石垣高さ二間程南の方へい〔堀〕ニ
二重の矢倉老ツ、南東の角ニ三重の矢倉有、東ニ二重の矢倉老ツ、只の矢倉老ツ、北
ニ矢倉老ツ、多門有〔口〕北ニ二門矢倉有、以上矢倉八ツ門矢倉多門共ニ

おとな衆

岡本正兵衛

千石 山本権兵衛 五百石

田中藤兵衛

千石 豊後殿〔松倉重政〕めいむこ〔姪翼〕之由

大坂ニ而ひるいなき〔比類無〕手柄仕候由

寺沢志摩殿おい〔甥〕申候由申候

若衆あかり〔上〕

多賀主水 二千石

吉田有左衛門

三百石 寺沢志摩殿おい〔甥〕申候由申候

奥村九目介

武百石 大坂ニ而高名仕候由

寺沢半三郎 三十人ふち〔扶持〕

若衆あかり〔上〕

志摩殿ニい〔居〕申候高畠新蔵子

高畠主膳 三十人ふち〔扶持〕

家中馬乗百五十三人御座候

宿ニとい申候へは百程可有御座由申候間

まわり候て侍屋敷かそへ〔数〕申候

鉄炮之者武百御座候由

一寛永三年之物成之儀少やけ候へ共、物成いつものことく〔如〕と申候

④

一きりしたんじうてい〔宗体〕の儀、去年上方より御
下候てより事之外きづく御せんざく被成末、しう
てい〔宗体〕ニ而ハ申候者共ニろひ〔転〕申由申候、
子共つかい〔使〕女之名ハ于今きりしたんの名をよ
ひ〔呼〕申候間、きりしたんかと申候へは、いに
し〔昔〕申なれしによつて于今よひ〔呼〕申候由
申候、大村ニ面も其分ニ干今きりしたん名ヲ申候
一町の長さ北南十三町、老筋之所も、六筋之所も有、
家の数千程御座候由申候、右之外覺書ニ御座候趣
壱ヶ条も無御座候、其通銘々ニ書立不申上候

幕府懸密復命書（筑前筑後肥前肥後探索書）文面（部分）

鳴原之城 三月九日二参、中一日逗留仕、十二日二肥後内長す〔長洲〕
へ舟二のり申候

（島原城图）

鳴原之城

一本丸東の方六十間、本丸さやの石垣高さ水より六間程、へい〔辨〕なり
り地より水へ三間程、両角に三重の矢倉有、此所の石垣高さ八間程、
本丸の石垣ハさや御座候而、高さし〔知〕れ不申候、乍去六間之石垣之へい〔辨〕の上より見候へは、三間程上へ見へ申候

一南の方八十間、さや共両角ニ三重の矢倉之所石垣高さ八間、中の石垣
高さ六間、本丸石垣高さし〔知〕れ不申候、六間の石垣之へい〔辨〕
の上より三間程見へ申候、矢倉之外へい〔辨〕也、堀之広さ十五間、
十三間之所も有、地より水へ三間程、堀へ四方共ニ同前

一西の方七十六間半分、南石垣高さ八間、残る北の方石垣高さ六間、皆

ゑい〔辨〕なり、六間之石垣之へい〔辨〕の上より本丸石垣三間見

ゑ申し候

一北の方石垣四間程、是ハ三ノ丸へ出候所之石垣也、皆多門なり

一本丸ノ口北二有、坂之上り門の左右石垣高さ三間程、坂下本丸石垣高
さ六間

一本丸矢倉数、三重の矢倉壱ツ、二重の矢倉三ツ、門矢倉壱ツ、合五
ツ、さやニ南ニ矢倉壱ツ、東ニ三重の矢倉武ツ、西ニ一重の矢倉壱ツ、
三ツ門矢倉壱ツ、合五ツ也

一一本丸南東の角ニ四方取はなしのちん新敷出来申、武ツ有
一二ノ丸北南卅間、西東ハ本丸之広さ矢倉數七ツ門矢倉武ツ共本丸より
下り候見付の丸馬や〔屋〕也、三ノ丸へ出口北口ううかはし〔廊下橋〕
也、橋の上十一間、堀ノ広さ十間

②

一二ノ丸の外目、二ノ丸西東六十間、北南六十間、東北西三方共ニ石
垣高さ五間、地より水へ三間程、本丸の方石垣四間程、西ノ方ニ廿
五間之多門、十間之多門あり、四方共ニ矢倉之外へい〔辨〕也

一矢倉敷六ツ、門矢倉・多門共ニ堀之広さ四方同前

一侍町広さ城之南かまへ〔構〕のきわ〔際〕より北へ九町四十間、西
東武町四十間

一口、北ニ壠ツ、西ニ壠ツ、南ニ壠ツ、東ニ武ツ、合五ツ、何も門矢
倉有

一石垣高さ北西南三方へ二間、東の石垣高さ四間町の方也

一矢倉東の方ニ十七、南ニ五ツ、西ニ二十四、北ニ五ツ、已上四十老也、
門・矢倉共ニ四方掘なし、四方共ニへいあり〔辨〕有

一へい〔辨〕のつくり〔繕〕本丸南の角より四十四間程、腰板より上
ノしら〔白〕土のきの白土つけなしおし〔付〕申候、三ノ丸の門・
矢倉之南のつま〔妻〕ぬりなおし〔塗直〕申候、同丸西南の角の

多門のつま〔妻〕より東へ五六間、下地より仕なおし〔直〕申候、
外かわ〔側〕のへい〔辨〕北ニ四間、同其近所ニ二間、へい〔辨〕

下地より仕なおし〔直〕申候、西の方ニ廿五間廿一間、八間、九間、
四間、五間之所十四所、下地より仕なおし〔直〕申候、はやぬり〔早
塗〕候て御座候所も有、其内矢倉も武ツ西之方計仕なおし〔直〕申候、

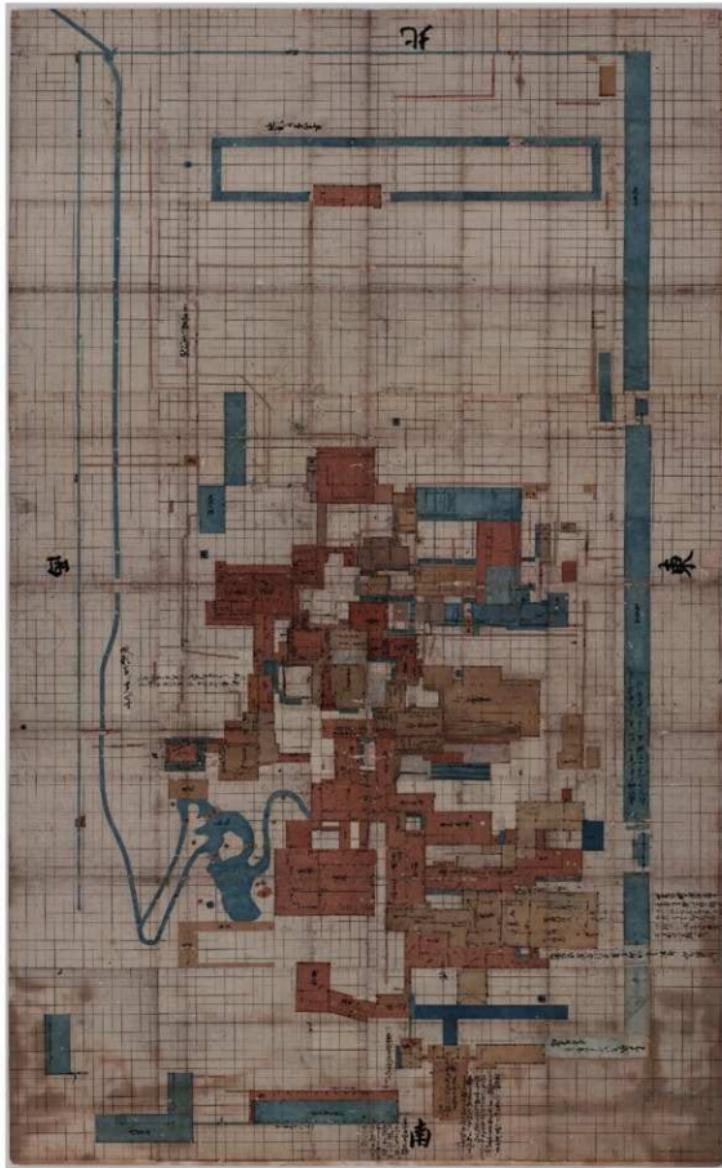
南の方外かわ〔側〕石垣之下町之前ニ米蔵有、其うしろに屋敷武
ツ出来申候、うしろ〔後〕西南の角ニ矢倉壱ツ出来申候

一本丸之内ニ東の方の三重の矢倉のたい〔台〕石垣矢倉共ニ新敷御座
候、いつ比出来候とどい〔問〕申候へは、壱年五月雨の中ニく

ずれ〔崩〕候て、六月より仕、一日九月二調申候由申候、三ノ丸
ろうか〔廊下〕橋のきわ〔際〕東南の角の石垣も新見申候、是も

石之矢倉と同前ニくすれ〔崩〕、仕なおし〔直〕申候由申候

2三ノ丸絵図 松平文庫 72-89



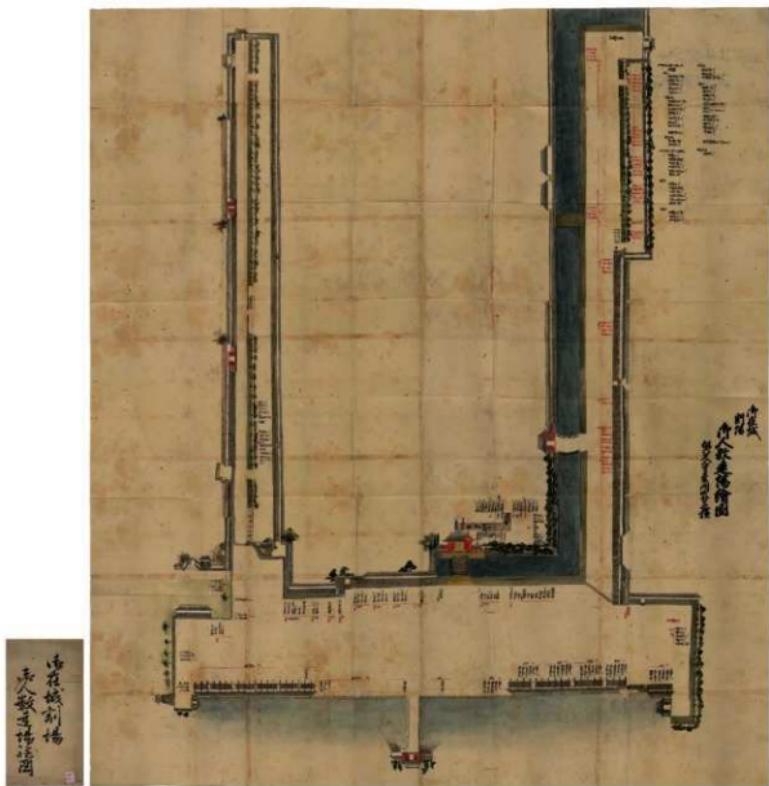
3-1 興慶園御住居替新建御家差図 本光寺 1885



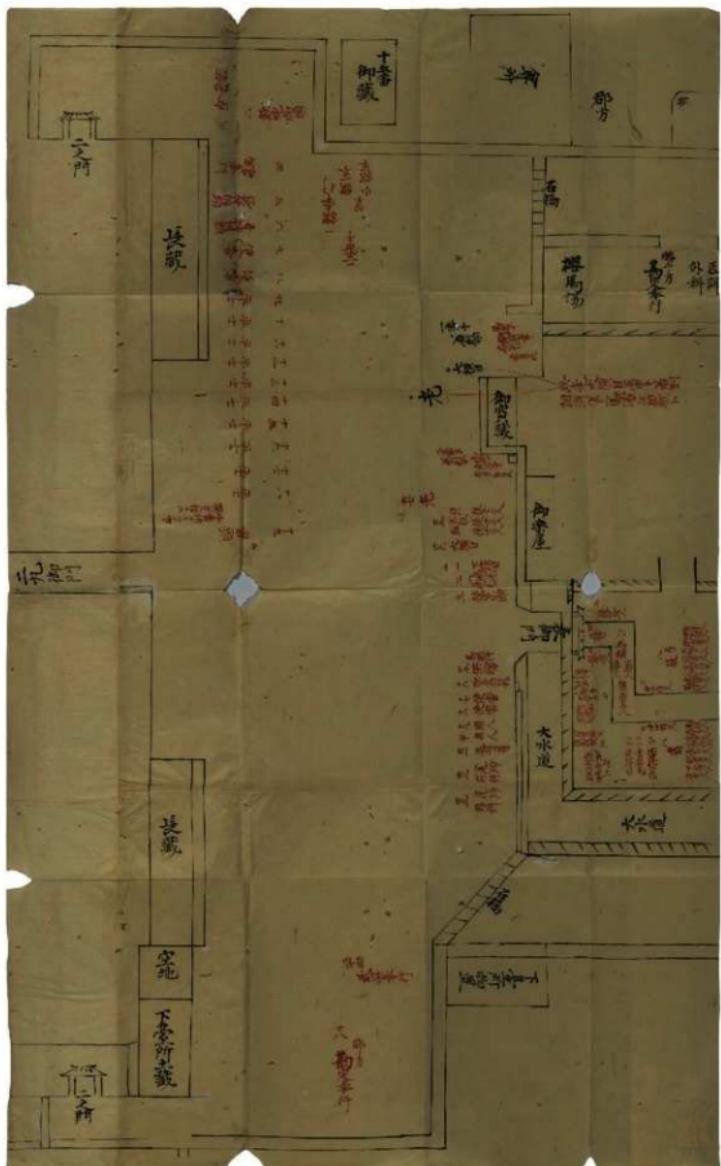
3-2 〔興慶園図〕 本光寺 1886



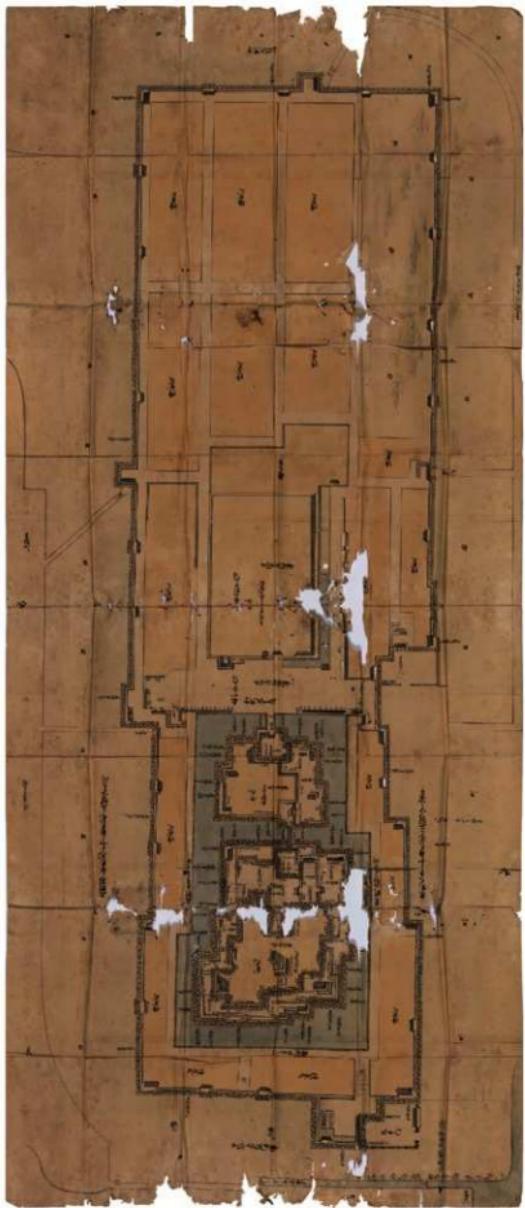
4 御在城割場御人数建場絵図 本光寺 3



5【島原城内諸役配置図断簡】本光寺 1683



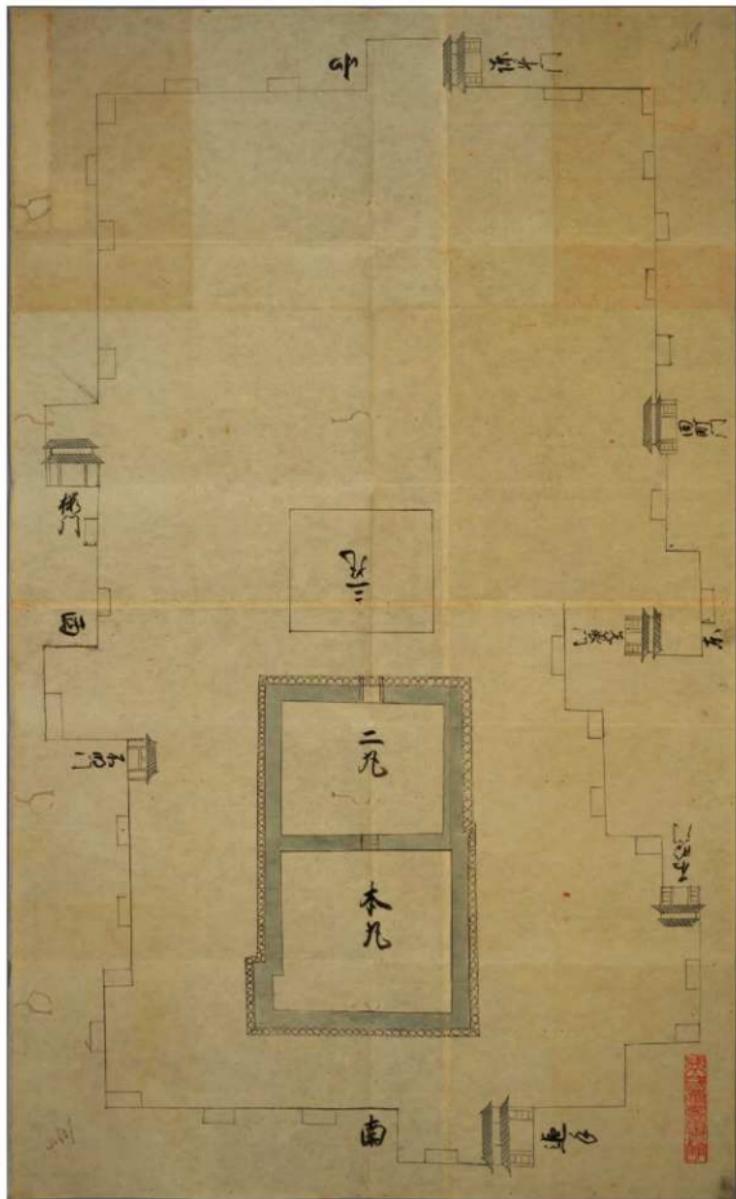
6 島原城之図 白井市教委 ①- 86



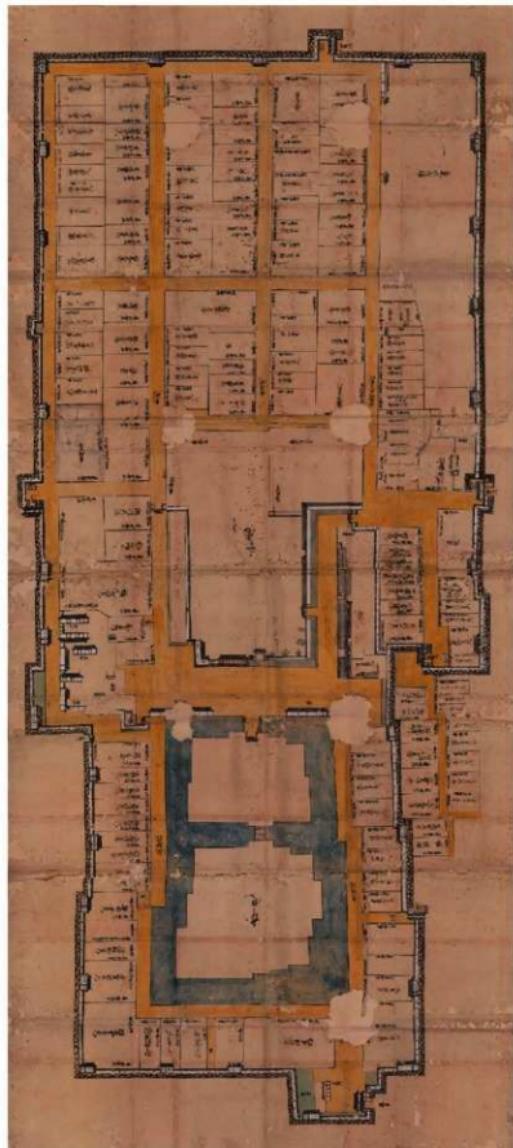
7 島原之城図 ([日本古城絵図] 西海道之部 (1) 322) 国立国会図書館



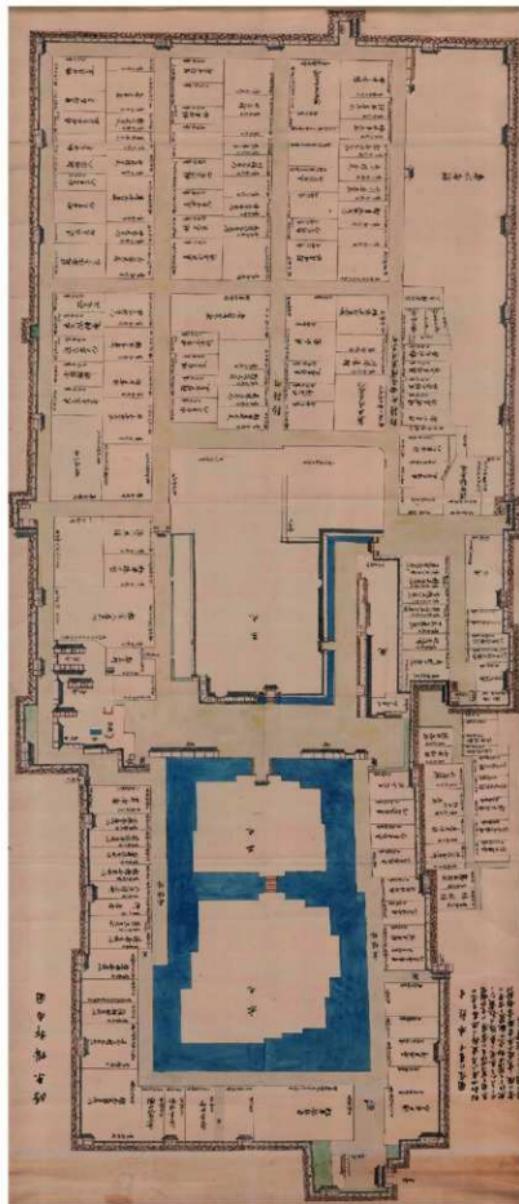
8 肥前国崎原城絵図（〔日本古城絵図〕西海道之部（1）321） 国立国会図書館



9-1 島原城城郭図 本光寺 771



9-2 島原城郭内図 松平文庫 絵図7



10・島原城下図（鉄炮町） 本光寺 771

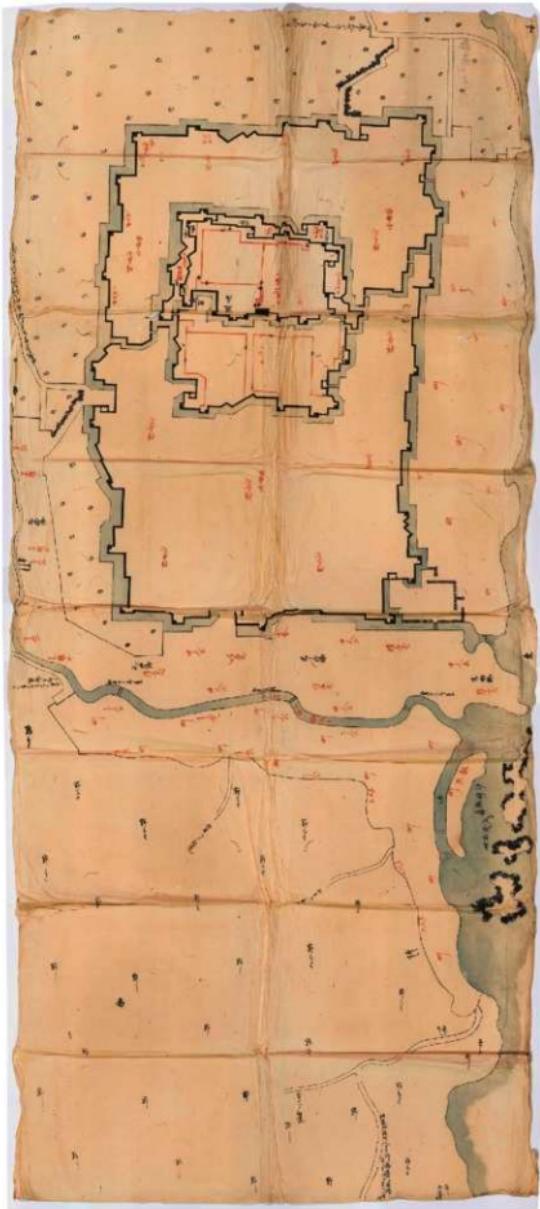
・〔城下図断簡〕 本光寺 M1897



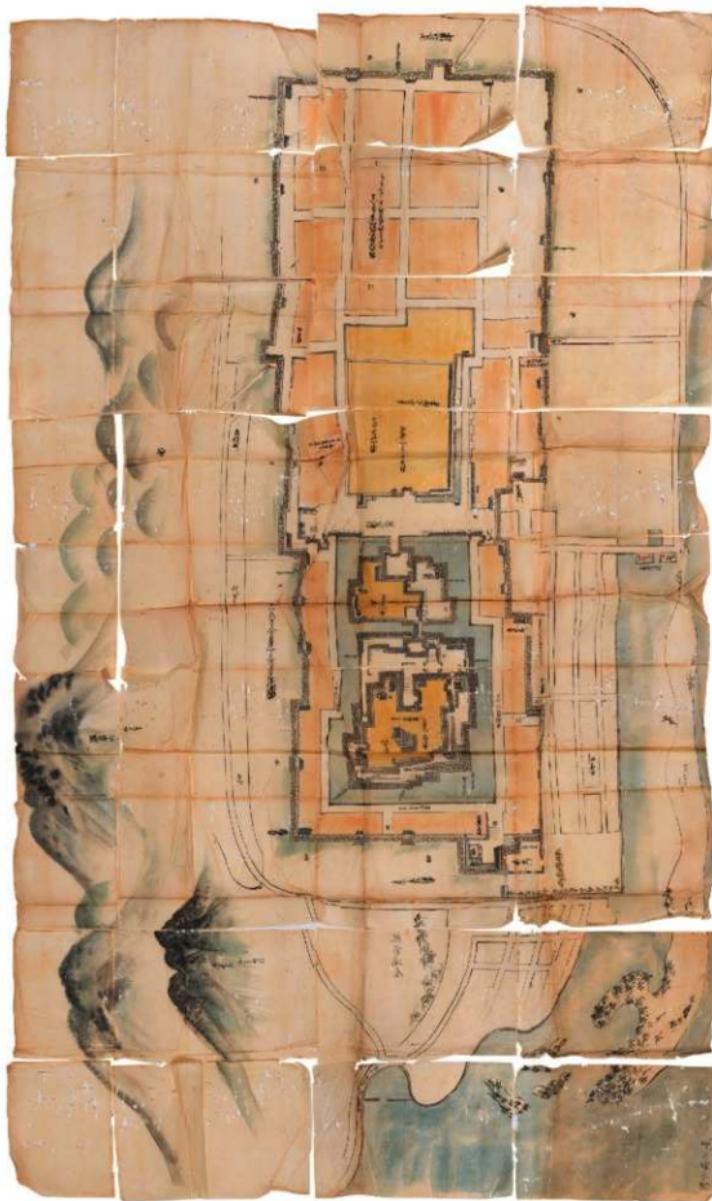
1.1-1 懇意シタル図（島原城図） 岐阜市教委②-15

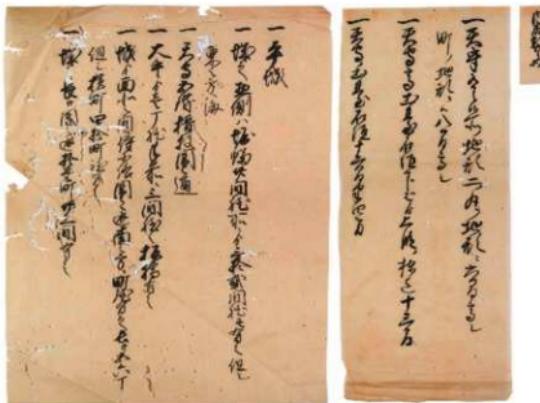


11-2 惣直シタル図（島原城図）臼杵市教委②-151



1.2 肥前崎原之城　臼杵市教委②-116





(付箋1)
内藤新五郎様

一天守守ノ土台石垣ニラメ地盤、有るもレ
町ノ地形ニハ八間高シ

一五間守ノ土台石垣ニトコモ石垣、移ニテ五間
一五間守ノ土台石垣ニトコモ石垣ニカ

(付箋2)
一天守有之候所ノ地形二ノ丸ノ地形二六間高シ
町ノ地形ニハ八間高シ
一天守高士台石垣下ば〔端〕より上段ノ棟迄十三間
一天守ノ土台石垣十二間半四方

(付箋3)

一平城
一城之惣側ハ堀幅廿四間程、所ニより三拾武間程モ有之、但シ
東之方ハ海

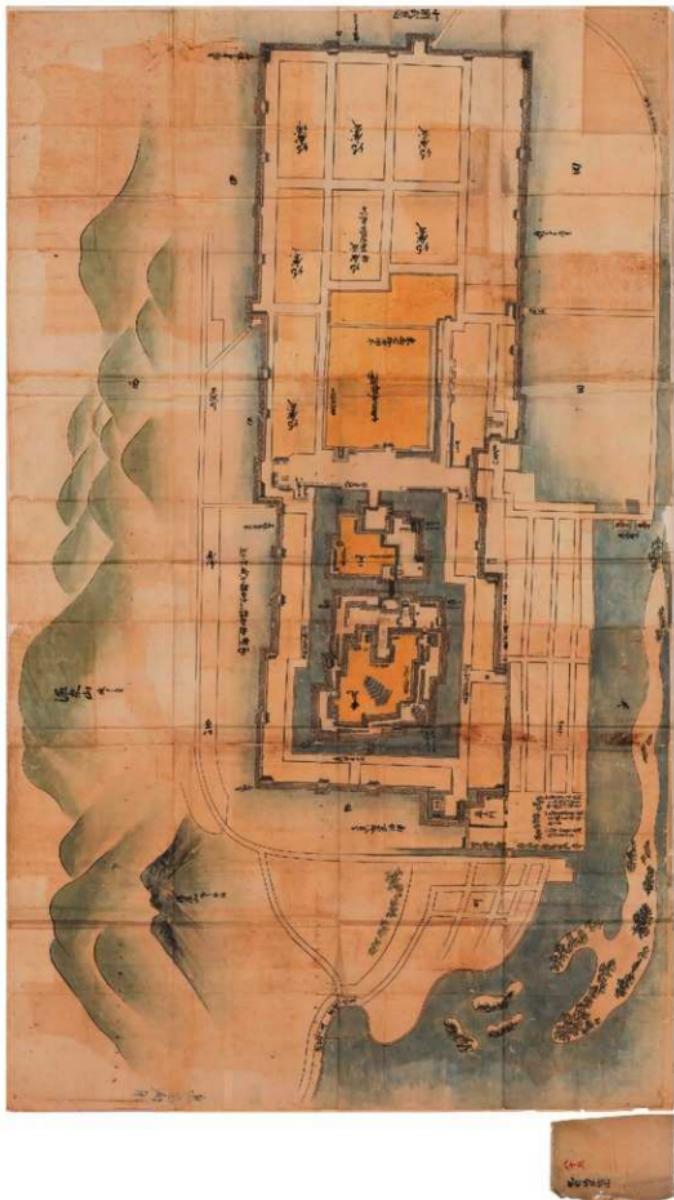
一大手モテ代ノ表裏同様、接筋有

一城ノ惣側前後高側ニ通南之方ニ町屋有之長サ五六丁
但シ横町四拾町程有之

一様也。間接筋等所ニ付御有

一城之長サ國之通拾壹町廿三間有之

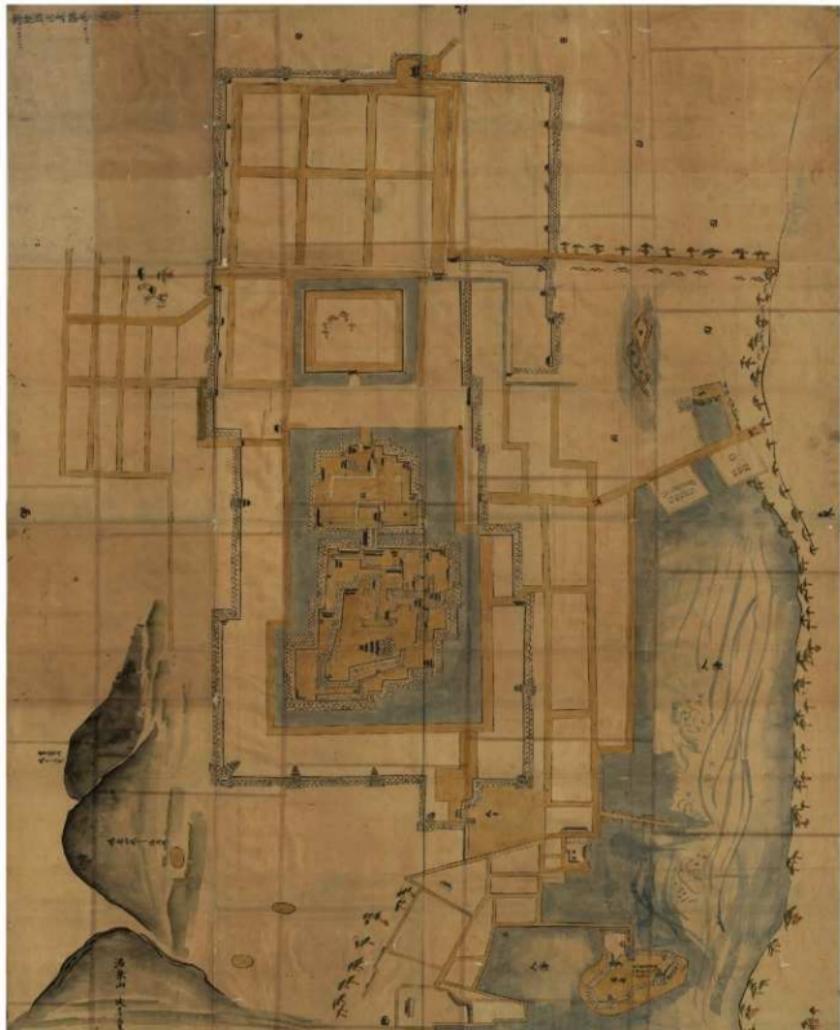
1.3 【島原城図】 白杵市教委 371



14【肥前崎原之城図】臼杵市教委 99



1.5 肥前国高来郡崎原城図 佐賀県立図書館 郷 0921



1.6 肥前国島原城内外の絵図 熊本県立図書館 17-352



裏書きに「島原城廻之絵図」とあり

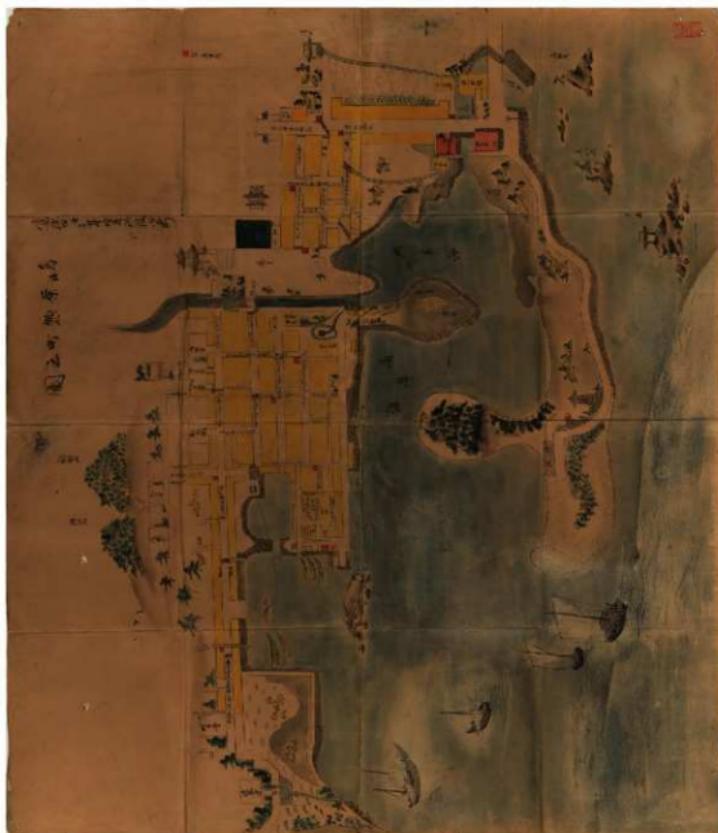
17 島原城下図 九大文化史 松木 354



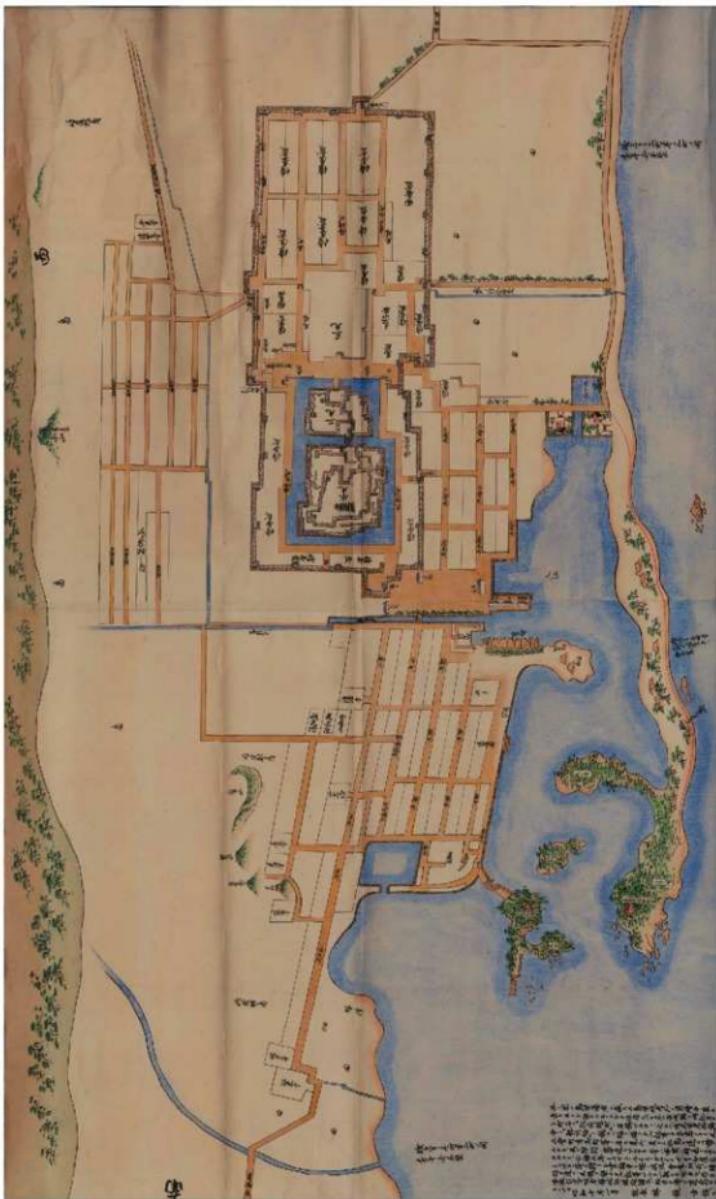
18島原惣町大変前図 九大文化史 長沼 1776



19 島原惣町之図 九大文化史 元山 243



20 島原城内外古図 松平文庫 絵図5



21-1 森岳城図 八幡神社（島原）



21-2森岳城図 松平文庫 絵図8



21-3 森岳城図 松平文庫 絵図9



2.1-4 島原大変後図 松平文庫 72-81



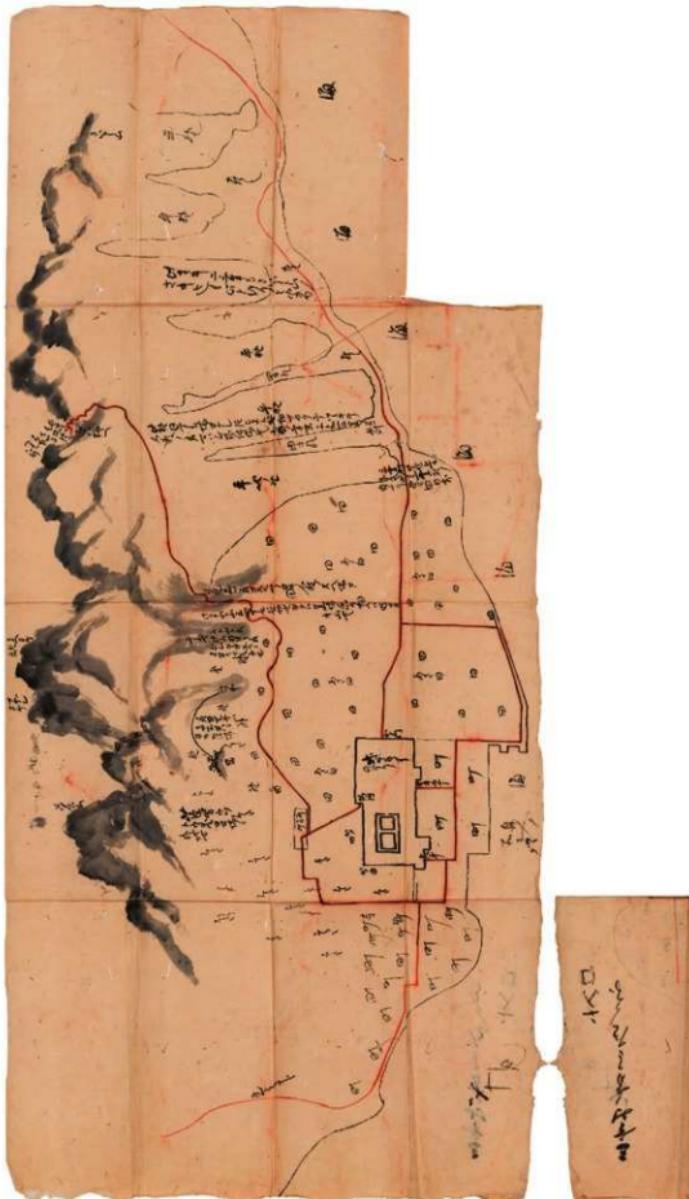
21-5 鳴原大変前後図・前図 松平文庫 絵図1



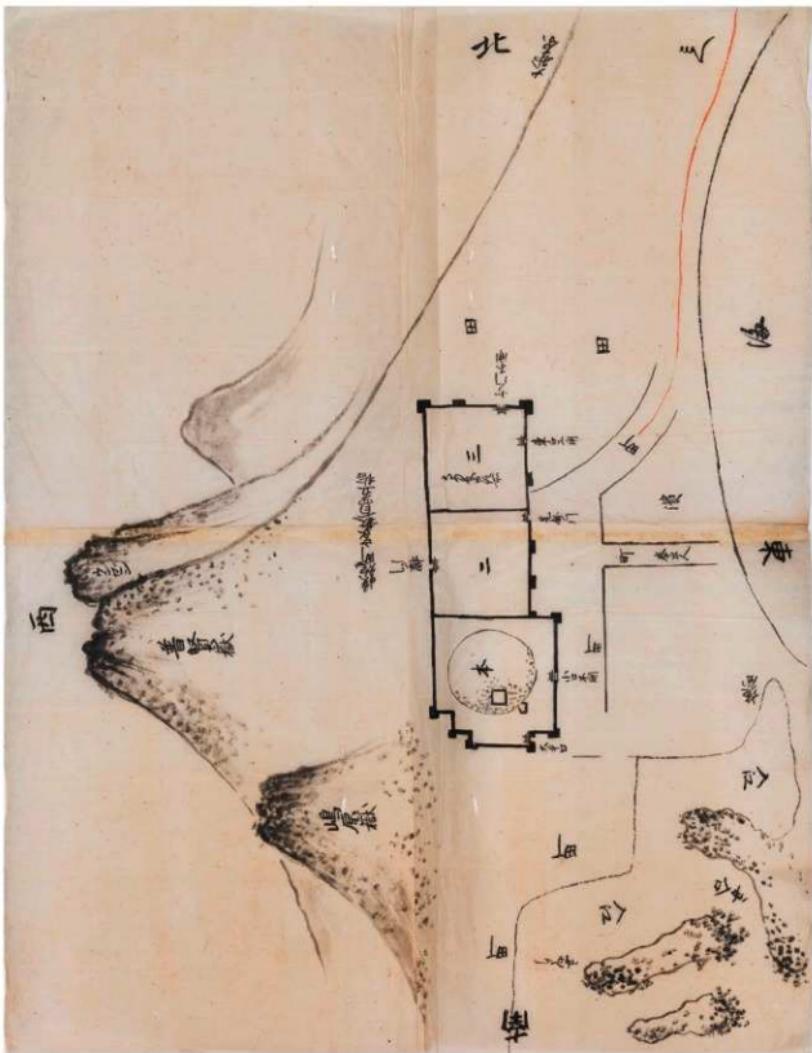
・後図



2.2 [島原城周辺図] 白井市教委 ①-32



23 [崎原城・普賢岳周辺図] 県杵市教委 ②-96



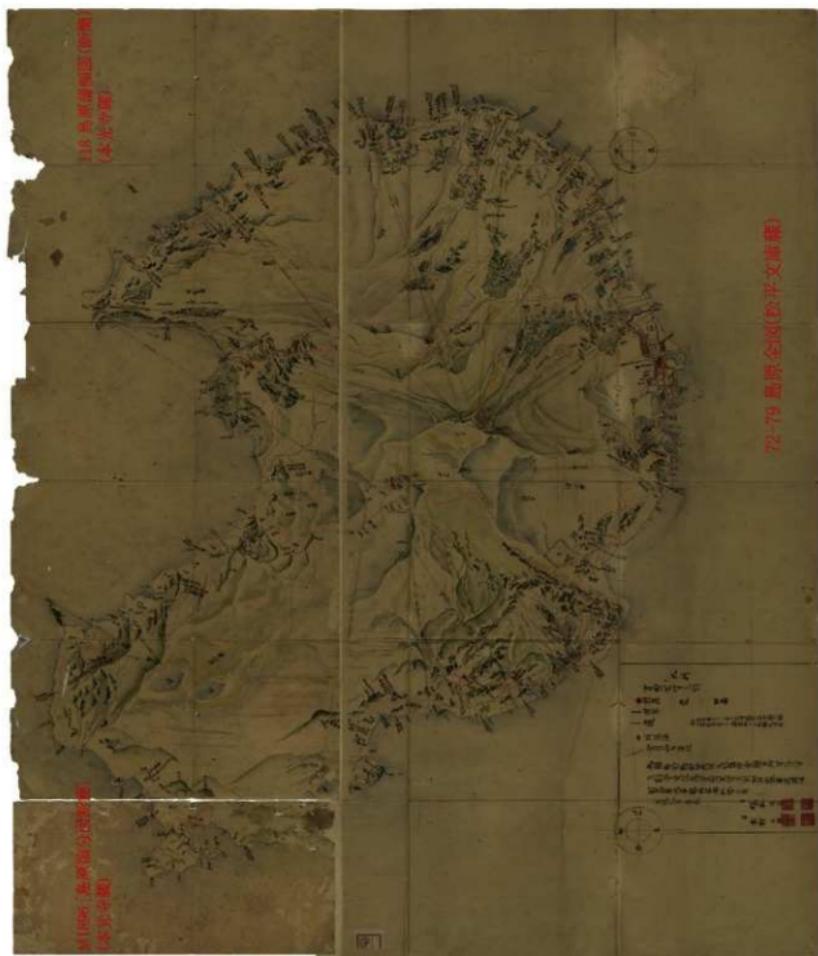
2.4 島原合戦絵図 県杵市教委 ②-303



25量地拾間一分之図—杉谷村 本光寺 792-4



2.6・島原藩領図(断簡) 本光寺 118
・[島原藩分図断簡] 本光寺 M1896
・島原全図 松平文庫 72-79



27【島原鎮要書略図】臼杵市教委 97



28 [島原半島周辺図] 白井市教委 ②-27



29【島原半島図】臼杵市教委 105



30 島原半島図 県杵市教委 ②-91



3.1 大村／島原／平戸／五島旧城郭調査 長崎歴史文化博物館 13-2-2

